

## 今こそ読みたい、知の扉を開く新書

図書館では、新書御三家の岩波新書、中公新書、講談社現代新書の他、ちくま新書、平凡社新書、集英社新書など、多数の新書を所蔵しています。新書は、時事的な内容のものが多く、現代社会を理解するのに最適です。また、学術書の入門編としても活用でき、教養を深めるのに最適な新書も少なくありません。今こそ読んでおきたい新書を厳選して特集します。

	書名 / 著者 (上段)	内容紹介 (下段)	請求番号
総記	知の逆転 / ジャレド・ダイヤモンド [ほか述]; 吉成真由美インタビュー・編 (NHK出版新書395)	NHK出版, 2012.12	002-C47i
	『銃・病原菌・鉄』でピューリッツァー賞を受賞したジャレド・ダイヤモンド、「普遍文法」を提唱し言語学に革命をもたらしたチョムスキー、脳神経科医のオリバー・サックスなど、限りなく真実を追い求め、学問の常識を逆転した叢智6人。彼らはいま、人類の未来をどう予見しているのか。		
	知的ヒントの見つけ方 / 立花隆著 文藝春秋, 2018.2 (文春新書1159)		002-Ta13c
	毎日の生活の中には知的好奇心を刺激する素材があふれている。日々、接するニュースや、足を運んだ展覧会、取材であった科学者の言葉などから、思考の材料を取り出す。そんな「知の巨人」のあざやかな手腕が味わえるエッセイ集。		
	知の越境法: 「質問力」を磨く / 池上彰著 光文社, 2018.6 (光文社新書953)		007-I33c
読書	素朴なギモンは貴重な情報源。人に説明して自分の理解を深める。異分野の知恵を借りて停滞を破る。想定外の問いで本音を引き出す。幾多の領域を跨いで学び続ける著者が、その効用と実践法を説く越境のスモ。		
	わかりやすさの罨: 池上流「知る力」の鍛え方 / 池上彰著 集英社, 2019.2 【集英社新書0966B】		007-I33w
	コピーやフェイク紛いのエセ情報が、インターネットやSNS、新聞にまで溢れている。安易なバラエティ番組は、事態を悪化させている。どうすればホンモノの情報や知識を得られるのか。行き過ぎた“要約”や、出所不明の“まとめ”に警鐘を鳴らす。		
	知の仕事術 / 池澤夏樹著 集英社 (発売), 2017.1 【インターナショナル新書001】		007-I35c
	混迷を深める現代を知的に生きていくためには、「情報」、「知識」、「思想」が必要だ。それをいかにして獲得し、更新するか。		
読書法	正しい本の読み方 / 橋爪大三郎著 講談社, 2017.9 【講談社現代新書2447】		019-H38t
	本には「構造」「意図」「背景」の3つがある。本の内容は覚えようとしないでいい。必ず読むべき「大著者100人」特別付録付。		
	多読術 / 松岡正剛著 筑摩書房, 2009.4 (ちくまプリマー新書)		019-Ma86t
	読書の楽しみを知れば、自然と多くの本が読める。著者の読書遍歴をふりかえり、様々な本を交えながら、多読のコツを伝授。		
	読む力: 現代の羅針盤となる150冊 / 松岡正剛, 佐藤優著 中央公論新社, 2018.4 (中公新書ラクレ616)		019-Ma86y
著作権	松岡氏、佐藤氏、初の対論集。既存の価値観がすべて費えた混沌の時代に、助けになるのは「読む力」だと二人は言う。混迷深まるこんな時代にこそ、読むべき150冊を提示する。これが、現代を生き抜くための羅針盤だ。		
	読書の価値 / 森博嗣著 NHK出版, 2018.4 (NHK出版新書547)		019-Mo451d
	わからないことは何でも検索できる時代だ。娯楽だって山のように溢れている。それでも読書でしか得られないものがある。読書が苦手でしかたのなかった少年は、どのように本と向き合い、大学教授・ベストセラー作家となったのか。		
	死ぬほど読書 / 丹羽宇一郎著 幻冬舎, 2017.7 【幻冬舎新書461】		019-N89s
	よりよく生きたいと望むなら、「世の中には知らないことが無数にある」と自覚することだ。自分の無知に気づくには、本が最適だ。		
著作権	ネット断ち: 毎日の「つながらない1時間」が知性を育む / 齋藤孝著 青春出版社, 2019.1 (青春新書intelligence)		019-Sa25n
	毎日1時間、ネット・SNSを断って“本物”に触れよう。文学、哲学、宗教、禅、絵画、茶道、俳句、歴史、科学、漫画、アニメ…。本物のワールドにディープに沈潜する時間は、疑似体験ではなく“体験”として血肉になり、深い教養と強いメンタルを育む。		
	人をつくる読書術 / 佐藤優著 青春出版社, 2019.2 (青春新書intelligence)		019-Sa852h
	読書は人生においてどのような役割を果たすのか。本を血肉にするにはどのような読み方をすればいいのか。なぜ読書は人生を豊かにしてくれるのか。		
	本を読むのが苦手な僕はこんなふうに本を読んできた / 横尾忠則著 光文社, 2017.7 【光文社新書892】		019-Y77h
著作権	朝日新聞連載の人気の書評が1冊に。「絵画の見方」から「創造」「死」のことまで、仕事と人生のヒントがいっぱい詰まった133冊。		
	18歳の著作権入門 / 福井健策著 筑摩書房, 2015.1 (ちくまプリマー新書)		021.2-F76j
	基礎的な知識からデジタル化と著作権の現況まで。著作権を考えることは未来を創造すること。教養としての著作権の話。		
	正しいコピーのすすめ: 模倣、創造、著作権と私たち / 宮武久佳著 岩波書店, 2017.3 (岩波ジュニア新書849)		021.2-Mi85t
	ネット画像をSNSにアップする、ウェブ上の文章を自分のレポートに貼り付ける、ネットでドラマや動画を視聴する…。コピーが日常行為になっている現在、誰もが「うっかり」他人の権利を侵害してしまう可能性がある。著作権の基本をわかりやすく解説する。		
教養は「事典」で磨け: ネットではできない「知の技法」 / 成毛眞著 光文社, 2015.8 (光文社新書768)		028-N53k	
実は辞書や事典、図鑑は、生涯をかけて読まれるべき面白い「本」である。おすすめの56冊とその活用法を紹介する。			

ジャーナリズム	<p><b>空気の検閲：大日本帝国の表現規制 / 辻田真佐憲著</b> 光文社, 2018.3 (光文社新書938) 070.12-Ts48k            ブラック労働的なその現場、エロ本評論家と化す検閲官、検閲官とマスコミの驚くべき一体ぶり、植民地における検閲の実情、検閲の対象となるメディアの広がり…。大日本帝国期の資料を丹念に追いながら、摩訶不思議な検閲の世界に迫っていく。</p>
	<p><b>フェイクニュースの見分け方 / 鳥賀陽弘道著</b> 新潮社, 2017.6 (新潮新書721) 070.14-U55f            新聞、テレビ、雑誌、ネット、コメンテーターの嘘にはもうウンザリだ。一見もつとらしいニュースや論評には、フェイク(虚偽の情報)が大量に含まれている。真偽を見抜くには何をすべきか。ポスト真実時代を生き抜くための正しい情報選別法を大公開。</p>
	<p><b>新聞記者 / 望月衣塑子 [著]</b> KADOKAWA, 2017.10 (角川新書) 070.16-Mo12s            官房長官会見で、次々と質問を繰り出す著者。脚光を浴び、声援を受ける一方で、パッシングや脅迫、圧力を受けてきた。演劇に夢中だった幼少期、矜持ある先輩記者の教え、スクープの連発、そして母との突然の別れ…。記者としての思いを明かす。</p>
	<p><b>権力と新聞の大問題 / 望月衣塑子, マーティン・ファクラー著</b> 集英社, 2018.6 (集英社新書) 070.21-Mo12k            日本のメディアを、東京新聞の望月記者とニューヨーク・タイムズ前東京支局長マーティン・ファクラー記者がタブーなしで語る。</p>
	<p><b>入門経済学の歴史 / 根井雅弘著</b> 筑摩書房, 2010.4 (ちくま新書837) 081-C44-837            スミス、リカード、マルクス、ケインズ、シュンペーター、ガルブレイス、そしてフリードマンなど現代の経済理論までを平明に解説。</p>
ちくま新書	<p><b>日本の国境問題：尖閣・竹島・北方領土 / 孫崎享著</b> 筑摩書房, 2011.5 (ちくま新書905) 081-C44-905            領土問題は、経済的不利益とナショナリズムにより、一触即発の事態に発展する。平和国家の国益に適った安全保障を説く。</p>
	<p><b>ミシェル・フーコー：近代を裏から読む / 重田園江著</b> 筑摩書房, 2011.9 (ちくま新書922) 081-C44-922            最高傑作『監獄の誕生』を糸口にフーコーの全貌に迫り、その思考の強靱さと魅力、それを支える方法とを、深く広く描き出す。</p>
	<p><b>学問の技法 / 橋本努著</b> 筑摩書房, 2013.1 (ちくま新書) 081-C44-993            学問の王道から邪道まで、著者の苦悩から生み出されたテクニックを満載。大学生はもちろん社会人も読めば学問がしたくなる。</p>
	<p><b>社会契約論：ホブズ、ヒューム、ルソー、ロールズ / 重田園江著</b> 筑摩書房, 2013.11 (ちくま新書1039) 081-C44-1039            社会の起源には何があったのか。ホブズ、ヒューム、ルソー、ロールズの議論を読みなおし、近代の中心的思想を蘇らせる。</p>
	<p><b>哲学入門 / 戸田山和久著</b> 筑摩書房, 2014.3 (ちくま新書1060) 081-C44-1060            ことばの意味とは何か、私たちは自由意志をもつのか、道徳は可能か、人生に意味はあるのか…。人間とは何かを探究する。</p>
	<p><b>知的生活習慣 / 外山滋比古著</b> 筑摩書房, 2015.1 (ちくま新書1104) 081-C44-1104            日常における工夫を習慣化することで、誰でも日々向上することができる。知の巨人による、『思考の整理学』日常生活実践編。</p>
	<p><b>近代政治哲学：自然・主権・行政 / 國分功一郎著</b> 筑摩書房, 2015.4 (ちくま新書1119) 081-C44-1119            今日の政治体制は、近代政治哲学が構想したものだ。その基本概念を検討すれば、我々の体制が抱える欠点も把握できる。</p>
	<p><b>戦後入門 / 加藤典洋著</b> 筑摩書房, 2015.10 (ちくま新書1146) 081-C44-1146            日本の対米従属は、どこに起源があり、どうすれば解消できるのか。原爆と無条件降伏の関係を解明し、平和への展望を語る。</p>
	<p><b>心理学の名著30 / サトウタツヤ著</b> 筑摩書房, 2015.10 (ちくま新書1149) 081-C44-1149            心理学を「認知」「発達」「社会」の側面から整理し、古典から最新研究までを解説する。名著を一気に紹介するブックガイド。</p>
	<p><b>プラグマティズム入門 / 伊藤邦武著</b> 筑摩書房, 2016.1 (ちくま新書1165) 081-C44-1165            プラグマティズムは、従来の西洋哲学の流れを大きく変えた。アメリカにおける誕生から最新の研究動向まで、全貌を解説。</p>
	<p><b>カール・マルクス：「資本主義」と闘った社会思想家 / 佐々木隆治著</b> 筑摩書房, 2016.4 (ちくま新書1182) 081-C44-1182            マルクスの理論は、今なお社会変革の最強の武器である。文献研究からマルクスの実像に迫り、思想の核心を明らかにする。</p>
	<p><b>移民大国アメリカ / 西山隆行著</b> 筑摩書房, 2016.6 (ちくま新書1193) 081-C44-1193            止まるところを知らない中南米移民。その増加への不満がいかに米国社会を蝕みつつあるのか。移民問題の全容を解明する。</p>
	<p><b>銀の世界史 / 祝田秀全著</b> 筑摩書房, 2016.9 (ちくま新書1206) 081-C44-1206            産業革命、黒人奴隷、スペインの凋落、オランダ独立、アヘン戦争、日清戦争…。銀で弾けた世界史のダイナミズムを描き出す。</p>
	<p><b>アレント入門 / 中山元著</b> 筑摩書房, 2017.1 (ちくま新書1229) 081-C44-1229            ユダヤ人として生まれ、ナチス体制、全体主義と対峙したアレント。思考の源泉を、ナショナリズムや公共性の問題から検証。</p>
	<p><b>日本人の9割が間違える英語表現100 / キャサリン・A・クラフト著; 里中哲彦編訳</b> 筑摩書房, 2017.1 【ちくま新書1230】 081-C44-1230            "See you again."なんて、ネイティブは言いません。在住30年超の著者だからこそ気づいた、日本人の勘違い英語の実態。</p>
	<p><b>ドキュメント日本会議 / 藤生明著</b> 筑摩書房, 2017.5 【ちくま新書1253】 081-C44-1253            国内最大の右派・保守運動とされる日本会議。改憲勢力の一角を占め、国政にも関与してきた。謎めく団体の実像に迫る。</p>
	<p><b>現代思想の名著30 / 仲正昌樹著</b> 筑摩書房, 2017.6 【ちくま新書1259】 081-C44-1259            幅広くかつ難解なものが多いといわれる現代思想の著作を一人の書き手が丁寧に解説したこれまでにはないブックガイド。</p>
	<p><b>フランス現代史隠された記憶：戦争のタブーを追跡する / 宮川裕章著</b> 筑摩書房, 2017.9 【ちくま新書1278】 081-C44-1278            1億発の不発弾と大量の兵士の遺体で住めない村、レジスタンスの虚構、ユダヤ人への迫害など、歴史に苦悩するフランスとは。</p>

死刑：その哲学的考察 / 萱野稔人著 筑摩書房, 2017.10 【ちくま新書1281】	081-C44-1281
死刑の存否をめくり、結論ありきでなく、死刑自体を深く考察することで、これまでの論争を根底から刷新する究極の死刑論。	
英語教育の危機 / 鳥飼玖美子著 筑摩書房, 2018.1 【ちくま新書1298】	081-C44-1298
センター試験廃止で「民間試験」導入、小学校英語、グローバル人材育成戦略…。2020年、この国の英語教育はどうなる？	
こころの病に挑んだ知の巨人：森田正馬・土居健郎・河合隼雄・木村敏・中井久夫 / 山竹伸二著 筑摩書房, 2018.1 【ちくま新書1303】	081-C44-1303
独自の精神医療、心理療法の領域を切り開いてきた五人の知の巨人たちを取り上げ、その理論の本質と功績を解説する。	
ひとり空間の都市論 / 南後由和著 筑摩書房, 2018.1 【ちくま新書1304】	081-C44-1304
日本は同調圧力が高く、「みんな・絆・コミュニティ」へと世論が傾くが、ひとり空間の現況と可能性を、いまいちど問い直す。	
やりなおし高校日本史 / 野沢道生著 筑摩書房, 2018.2 (ちくま新書1306)	081-C44-1306
歴史を学ぶには“歴史を壮大な一つのストーリーととらえること”とよく言われますが、実はそれが結構難しいと感じませんか？この本はその難しいストーリーを沢山のエピソードを交え解説されているので、歴史上の有名な人も身近に感じることができるかもしれません。	
行政学講義：日本官僚制を解剖する / 金井利之著 筑摩書房, 2018.2 【ちくま新書1310】	081-C44-1310
支配・外界・身内・権力の四つの切り口で行政の作動様式を解説。支配と権力にさらされる被治者を読者として想定した基本書。	
アメリカの社会変革：人種・移民・ジェンダー・LGBT / ホーン川嶋瑤子著 筑摩書房, 2018.2 【ちくま新書1311】	081-C44-1311
アメリカの社会変革の原動力として、人種、移民、女性、LGBTの平等化運動を取り上げ、政治、経済、社会、文化の変化を見る。	
日本人の9割が知らない英語の常識181 / キャサリン・A・クラフト著；里中哲彦編訳 筑摩書房, 2018.3 (ちくま新書1313)	081-C44-1313
直訳した変な表現、古臭い表現を多用、通じないカタカナ語など、日本人の英語は勘違いだらけだ。役に立つ知識を伝授する。	
英米哲学入門：「である」と「べき」の交差する世界 / 一ノ瀬正樹著 筑摩書房, 2018.4 (ちくま新書1322)	081-C44-1322
ロック、バークリ、ヒューム、ラッセル、ウイトゲンシュタインなど、「経験」や「言語」を足場に考え抜いた哲学者たちの議論を糸口に、素朴にして深遠な哲学の根本問題へといざなう入門講義。	
サイコパスの真実 / 原田隆之著 筑摩書房, 2018.4 (ちくま新書1324)	081-C44-1324
人当たりがよくて魅力的。でも、息を吐くようにウソをつく…。犯罪心理学の知見から、「サイコパス」の冷血な素顔に迫る。	
欧州ポピュリズム：EU分断は避けられるか / 庄司克宏著 筑摩書房, 2018.5 【ちくま新書1327】	081-C44-1327
反移民、反グローバル化、反リベラルが席卷。ポピュリズム危機に揺れるEUの現実を、その法制度と機構から分析。	
アメリカ政治講義 / 西山隆行著 筑摩書房, 2018.5 (ちくま新書1331)	081-C44-1331
米国政治はどのように動いているのか。歴史・制度・文化から解説。アメリカン・デモクラシーの考え方がわかる入門書。	
ヨーロッパ繁栄の19世紀史：消費社会・植民地・グローバリゼーション / 玉木俊明著 筑摩書房, 2018.6 (ちくま新書1335)	081-C44-1335
蒸気船が大洋を駆け巡り人や物資を運び、電信が普及、グローバリゼーションが急速に進展し、富がヨーロッパに集中した。しかし、そのような繁栄の裏には、搾取され続けた植民地と、奴隷にされた人々の犠牲があった。ヨーロッパの光と闇の両面を描く。	
オカルト化する日本の教育：江戸しぐさと親学にひそむナショナリズム / 原田実著 筑摩書房, 2018.6 (ちくま新書1339)	081-C44-1339
偽史・疑似科学に基づく教育論、「江戸しぐさ」と「親学」が学校に定着しつつある。欺瞞に満ちた教えはなぜ蔓延したのか。	
世界史序説：アジア史から一望する / 岡本隆司著 筑摩書房, 2018.7 (ちくま新書1342)	081-C44-1342
アジア史の観点で世界史を描くと「ヨーロッパの奇跡」「日本の近代化」はどう位置づけられるのか。西洋中心の歴史観を覆す。	
いちばんやさしい美術鑑賞 / 青い日記帳著 筑摩書房, 2018.8 (ちくま新書1349)	081-C44-1349
年に300以上の展覧会を見るカリスマアートブロガーが目からウロコの美術の楽しみ方を教える。アート鑑賞の質が変わる書。	
英語教育幻想 / 久保田竜子著 筑摩書房, 2018.8 (ちくま新書1350)	081-C44-1350
「英語は全世界の人々をつなぐ」「英語力は経済的成功をもたらす」は、本当なのか？日本人の英語信仰と真偽を解き明かす。	
情報生産者になる / 上野千鶴子著 筑摩書房, 2018.9 (ちくま新書1352)	081-C44-1352
批判的に読むってどういうこと？ 問いを立てると言われても……。大学での学び方に戸惑っている人へ。問いの立て方、データ収集、分析、アウトプットまで、新たな知を生産し発信するための方法を全部詰め込んだ一冊。	
政治の哲学：自由と幸福のための11講 / 橋爪大三郎著 筑摩書房, 2018.9 (ちくま新書1353)	081-C44-1353
社会の仕組みを支えるのが政治だ。政府、議会、安全保障から、年金、教育、医療保険まで、重要ポイントが分かる入門書。	
日本が壊れていく：幼稚な政治、ウソまみれの国 / 斎藤貴男著 筑摩書房, 2018.9 (ちくま新書1355)	081-C44-1355
憲法の基本原則をおかす安倍政権の危険な体質を痛烈に批判し、なぜ日本の政治がここまで劣化したのかを徹底検証する。	
帝国化する日本：明治の教育スキャンダル / 長山靖生著 筑摩書房, 2018.9 (ちくま新書1357)	081-C44-1357
日清・日露戦争に勝利した日本は帝国化に向かうべく、愛国教育を推進した。明治初頭の実学優先・合理主義の教育が教養・精神主義に転換し、国家と天皇の神聖化、帝国神話強化に向かうメカニズムを解説する。	

ちくま新書	<p>沖縄報道：日本のジャーナリズムの現在 / 山田健太著 筑摩書房, 2018.10 (ちくま新書362) 081-C44-1362          オスプレイ機は「不時着(読売・産経)」したのか「墜落(沖縄紙)」したのか。沖縄報道から偏向、分断、ヘイトが生まれる構造を解く。</p>
	<p>愛読の方法 / 前田英樹著 筑摩書房, 2018.10 (ちくま新書1363) 081-C44-1363          本を読めば人は賢くなれるものだろうか。見栄とする読書は、人をどこまでも愚かにする。本によって救われる唯一の道とは何か。</p>
	<p>東京裁判「神話」の解体：パル、レーリング、ウェブ三判事の相克 / D・コーエン, 戸谷由麻著 筑摩書房, 2018.11 (ちくま新書1365) 081-C44-1365          東京裁判は「勝者の裁き」であり、欺瞞に満ちた判決だったというのは神話に過ぎない。パル判事らの反対意見の誤謬と、判決の正当性を七十年の時を越えて検証する。</p>
	<p>武器としての情報公開：権力の「手の内」を見抜く / 日下部聡著 筑摩書房, 2018.11 (ちくま新書1366) 081-C44-1366          森友問題、PKO日報問題は、情報公開請求が引き金となり問題化。情報公開制度を活用して報じた記者が舞台裏を明かす。</p>
	<p>地方都市の持続可能性：「東京ひとり勝ち」を超えて / 田村秀著 筑摩書房, 2018.11 (ちくま新書1367) 081-C44-1367          国の方針に翻弄されてきた自治体。厳しい状況下で地域を盛り上げ、どうブランド力を高めるか。地方が生き残る条件を探る。</p>
	<p>アンダークラス：新たな下層階級の出現 / 橋本健二著 筑摩書房, 2018.12 (ちくま新書1371) 081-C44-1371          就業人口の15%が平均年収186万円。この階級の人々はどうのように生きているのか？調査データを基に実態を明らかにする。</p>
	<p>国際法 / 大沼保昭著 筑摩書房, 2018.12 (ちくま新書1372) 081-C44-1372          憲法や安全保障のような大問題だけでなく、コンビニでパンを買うといった私的な問題にまで国際法は関わっている。国際法がわからなければ、現代史も理解できない。弱肉強食の「国際社会」という世界で、法はどう働くのか。「生きた国際法」を解説。</p>
	<p>東京格差：浮かぶ街・沈む街 / 中川寛子著 筑摩書房, 2018.12 (ちくま新書1374) 081-C44-1374          「閑静な住宅街」「職住分離」「住みよい街」という発想はもはや時代遅れ。二極化する東京で、生きのこる街の条件は何か？</p>
	<p>はじめてのアメリカ音楽史 / ジェームス・M・バーダマン, 里中哲彦著 筑摩書房, 2018.12 (ちくま新書1376) 081-C44-1376          ブルーズ、ジャズ、ソウル、ロックンロール、ヒップホップ…。ルーツから現在のアーティストまで、その歴史を徹底的に語りつくす。</p>
	<p>ヨーロッパ近代史 / 君塚直隆著 筑摩書房, 2019.1 (ちくま新書1377) 081-C44-1377          宗教と科学の相剋の視座から、時代精神を体現した八名の歩みを糸口に、近代ヨーロッパが世界史を一変させた秘密を解く。</p>
	<p>都市空間の明治維新：江戸から東京への大転換 / 松山恵著 筑摩書房, 2019.1 (ちくま新書1379) 081-C44-1379          江戸が東京になったとき、どのような変化が起こったのか？皇居改造、煉瓦街計画、武家地の転用など空間の変容を考察する。</p>
	<p>南スーダンに平和をつくる：「オールジャパン」の国際貢献 / 紀谷昌彦著 筑摩書房, 2019.1 (ちくま新書1382) 081-C44-1382          2011年に独立した新興国南スーダン。その平和構築の現場では何が起こり必要とされているのか。前駐在大使の貴重な証言。</p>
哲学	<p>マルクス・ガブリエル欲望の時代を哲学する / 丸山俊一, NHK「欲望の時代の哲学」制作班著 NHK出版, 2018.12 (NHK出版新書569) 100-Ma591m          “哲学界の新星”、マルクス・ガブリエル。2018年6月の来日時の滞在記録をまとめて大反響となったNHK番組「欲望の時代の哲学」を待望の書籍化。「戦後史」から「日本」までを語りつくす。世界的ロボット工学者・石黒浩氏とのスリリングな対論も収録。</p>
	<p>まんがが哲学入門：生きるって何だろう？ / 森岡正博, 寺田にゃんこふ著 講談社, 2013.7 (講談社現代新書) 104-Mo62m          生きるってどういうこと？どうして私たちの世界が存在するのか？哲学の疑問を、「まんまるくん」と「先生」の楽しい対話から考える。</p>
	<p>はじめての哲学的思考 / 菅野一徳著 筑摩書房, 2017.4 (ちくまプリマー新書276) 104-To49h          なぜ人を殺してはならないの。生きる意味とは何だろう。力強く多様な思考法に満ちている哲学。思考法のエッセンスを紹介。</p>
西洋哲学	<p>幸福とは何か：ソクラテスからアラン、ラッセルまで / 長谷川宏著 中央公論新社, 2018.6 (中公新書2495) C-130-H36k          幸福とは何か。この問いに哲学者たちはどう向き合ってきたのか。共同体の秩序と個人の衝突に直面したソクラテス、アリストテレス、道徳と幸福の対立を見据えたイギリス経験論のヒューム、アダム・スミス。世界大戦に直面した20世紀のアラン、ラッセルまで。</p>
	<p>西洋哲学の10冊 / 左近司祥子編著 岩波書店, 2009.1 (岩波ジュニア新書) 130-Sa43s          ギリシアから現代まで、西洋哲学の名著の入り口に立ってみよう。もっと読んでみたくなる1冊がきっと見つかる哲学読書案内。</p>
	<p>ヨーロッパ思想入門 / 岩田靖夫著 岩波書店, 2003.7 (岩波ジュニア新書) 130.2-197e          デカルト、カント、ハイデガーらが説く哲学は、すべて二つの土台の上に立つ。それはギリシアの思想とヘブライの信仰である。</p>
	<p>ジョン・ロック：神と人間との間 / 加藤節著 岩波書店, 2018.5 (岩波新書1720) S-133.25-Yk          自由で平等な市民社会の原理を探究し、民主主義の基礎を築いたジョン・ロック。啓蒙の時代を準備した「光」の思想家の背景には、「神なしではすまずことのできない」宗教性と、「影」を色濃く帯びた思想的挫折があった。</p>
	<p>ヘーゲルを越えるヘーゲル / 仲正昌樹著 講談社, 2018.10 (講談社現代新書2497) 134.4-Ynjk          精神を中心とした「歴史」の発展を描いたヘーゲル。有名な「主」と「僕」の弁証法、承認論と共同体の議論等を通じて現代思想に与えた影響を探る。そしてラカン、ハーバマス、アーレントなど現代の思想家のヘーゲル解釈を紹介する。</p>
<p>ニーチェはこう考えた / 石川輝吉著 筑摩書房, 2010.11 (ちくまプリマー新書) 134.922-Yi          徹底的に挫折しても、再び立ち上がることができるのはなぜか？不安で不確実な現代に、等身大のニーチェが今、よみがえる。</p>	

心理学	レジリエンス入門：折れない心のつくり方 / 内田和俊著 筑摩書房, 2016.9 (ちくまプリマー新書) 141.8-U14r 人生には心が折れやすくなる時期がある。心の自然治癒力「レジリエンス」を高め、困難に向かう方法をわかりやすく伝える。
	レジリエンス：こころの回復とはなにか / セルジュ・ティスロン著；阿部又一郎 訳 白水社, 2016.12 Q-146.2-Ti7r (文庫クセジュ) レジリエンスとは、困難な状況をのり越え、不都合な環境で自らを構築する能力を表わす。レジリエンス研究の歴史と現状とは。
倫理学	ぼくたちの倫理学教室 / E・トゥーゲンハット, A・M・ビクーニャ, C・ロペス著；鈴木崇夫 訳 平凡社 150-Tu3b , 2016.1 (平凡社新書) 現代ドイツを代表する哲学者が、中学生たちの会話のかたちで、日常にある題材とふつうの言葉で、倫理の根本問題を考える。
	国体論：菊と星条旗 / 白井聡著 集英社, 2018.4 【集英社新書0928A】 155-Sh81k 新書大賞2019第8位 自発的な対米従属の謎を解く鍵は、国体にあった。戦前の国体＝天皇から、戦後の国体＝アメリカへを分析。「戦後の国体」とは、天皇制というピラミッドの頂点に、アメリカを鎮座させたものなのだ。なぜ、かくも奇妙な「国体」が生まれたのか。「戦後の国体」は、われわれをどこに導くのか。
	仕事と心の流儀 / 丹羽宇一郎著 講談社, 2019.1 (講談社現代新書2508) 159-N891s 人はなんのために仕事をするのか？仕事の真の報酬とは何か？新入社員から経営者まで共通する働くことの本質を語り尽くす。
	君たちはどう生きるかの哲学 / 上原隆著 幻冬舎, 2018.5 (幻冬舎新書498) 159.5-Y92kYu 著者は1981年、哲学者・鶴見俊輔の文章で『君たち……』の存在を知る。鶴見は「日本人の書いた哲学書として最も独創的なものの一つ」と評していた。刊行から80年、いま爆発的に読まれる不朽の書を、鶴見哲学を補助線に丁寧に深く読み進める。
宗教	一神教とは何か：キリスト教、ユダヤ教、イスラームを知るために / 小原克博著 平凡社, 2018.2 160.4-Ko27i 【平凡社新書】 一神教の教義と歴史、現実の社会に及ぼす影響や事件、一神教の理論と現実、各宗教の共通点と相違点を分かり易く解説。
	異端の時代：正統のかたちを求めて / 森本あんり著 岩波書店, 2018.8 (岩波新書1732) S-161-Mo55i 新書大賞2019第9位 世界に蔓延するポピュリズム。はたしてそれは民主主義の異端なのか？古代中世の神学史、丸山眞男らの議論を手がかりに、宗教・政治・文化に通底する「異端発生のメカニズム」を解き明かし、混迷する時代の深層に迫る。
	世界は四大文明できている / 橋爪大三郎著 NHK出版, 2017.10 【NHK出版新書530】 161.3-H38sc 世界を動かす四大文明の内実とは。宗教が文明圏の人びとの考え方や行動にどのような影響を与えているのかを明快に説く。
	聖書、コーラン、仏典：原典から宗教の本質をさぐる / 中村圭志著 中央公論新社, 2017.10 C-161.9-N37s (中公新書2459) 宗教には教典がある。開祖やその弟子たち、あるいは教団によって書かれ、編まれ、受け継がれた「教え」の原点だ。時代と場所にに応じて教義が変わっても、常に立ち帰る場所として教典がある。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教、仏教から、ヒンドゥー教や神道、儒教・道教まで。歴史を超えて受け継がれてきた教典はどのように生まれ、なにを私たちに伝えようとしているのか。
	イスラームの歴史：1400年の軌跡 / カレン・アームストロング著；小林朋則 訳 中央公論新社, 2017.9 【中公新書2453】 C-167-A791i 世界的宗教学者がイスラームの歴史を概観。誕生から国家の発展、近代化、世俗化などを、思想的背景とともに解き明かす。
	一神教と戦争 / 橋爪大三郎, 中田考著 集英社, 2018.12 (集英社新書0960) 167-H38i なぜキリスト教徒は戦争に強いのか？なぜキリスト教圏とそこから派生した世俗国家が覇権を制しているのか？そして、西欧とイスラームの衝突の思想的な原因はどこにあるのか？一神教とその社会、そして戦争の関係を考察する文明論の決定版。
	靖国参拝の何が問題か / 内田雅敏著 平凡社, 2014.8 (平凡社新書) 175.1-U14y 靖国神社が、A級戦犯を合祀し、遊就館の展示で主張する「先の戦争は正しかった」という歴史認識に、問題の根源がある。
	宗教国家アメリカのふしぎな論理 / 森本あんり著 NHK出版, 2017.11 【NHK出版新書535】 190.253-Mo55s 歴史をさかのぼり、かの国に根づいた奇妙な宗教性のありかたを読み解き、トランプ現象やポピュリズム蔓延の背景に鋭く迫る。
	キリスト教と戦争：「愛と平和」を説きつつ戦う論理 / 石川明人著 中央公論新社, 2016.1 C-190.4-I76c (中公新書) 聖書や歴史上の神学者、聖職者が説く「戦う論理」とは。愛と平和を祈りつつキリスト教徒たちが戦争に関わる矛盾を問い直す。
	世界史
海賊の世界史：古代ギリシアから大航海時代、現代ソマリアまで / 桃井治郎著 中央公論新社, 2017.7 (中公新書2442) C-209-Mo25k 古代ギリシアのヘロドトスは英雄と言ひ、ローマのキケロは「人類の敵」とののしった。ヴァイキングは西欧を蹂躪し、スペインとオスマン帝国が激突したレパントの海戦は海賊が主役だった。イギリスが世界帝国を築く過程ではカリブ海を跋扈するバッカニア海賊が裏面から支えた。キリスト教とイスラームの対立、力と正義の相克など、多様な視座で読み解く、もう一つの世界史。	
世界史の新常識 / 文藝春秋編 文藝春秋, 2019.3 (文春新書1208) 209-Se22bk ローマ帝国を滅ぼしたのは難民と格差だった、イスラームはなぜ台頭できたのか、明朝を揺るがした日本の火縄銃、イギリス料理がまずい理由とは一知っているようで知らない世界史のエッセンスを凝縮した一冊。	
400字で読むあらすじ世界史 / 祝田秀全監修 宝島社, 2019.1 (宝島社新書523) 209-Y84 古代文明から現代の国際政治まで、世界の歴史がたった2時間で頭に入る。各トピック400字ほどのあらすじで、古代から近現代までの世界史を、サクッと学びなおせる一冊。キーワード解説もついているため、重要なポイントもしっかりおさえられます。	

日本史	<p><b>承久の乱：真の「武者の世」を告げる大乱 / 坂井孝一著</b> 中央公論新社，2018.12 (中公新書2517) C-210.42-Sa29j 後鳥羽上皇は鎌倉幕府打倒を企て、振り返りにあったのか？ 公武関係を劇的に変え、中世社会のあり方を決めた大乱を描く。</p>
	<p><b>応仁の乱：戦国時代を生んだ大乱 / 呉座勇一著</b> 中央公論新社，2016.10 (中公新書) C-210.469-G74o 室町後期、京都を戦場に繰り広げられた内乱は、なぜあれほど長期化したのか。戦国乱世の扉を開いた大事件を読み解く。</p>
	<p><b>江戸はスゴイ：世界一幸せな人びとの浮世ぐらし / 堀口菜純著</b> PHP研究所，2016.9 (PHP新書) 210.5-H88e 多数の絵画史料を盛り込んで、“庶民が主役”の江戸がいかに魅力的で、面白くて、スゴイ町だったかを徹底紹介する。</p>
	<p><b>百姓一揆 / 若尾政希著</b> 岩波書店，2018.11 (岩波新書1750) S-210.5-W25h なぜ百姓は、訴訟や一揆を通して粘り強く自己主張できたのか。各地の「一揆物語」には、どんな思想が織りこまれているのか。</p>
	<p><b>歴史と戦争 / 半藤一利著</b> 幻冬舎，2018.3 (幻冬舎新書495) 210.6-H29r 幕末・明治維新からの日本近代化の歩みは、戦争の歴史でもあった。日本民族は世界一優秀だという驕りのもと、無能・無責任なエリートが戦争につきすすみ、メディアは煽り、国民は熱狂した。過ちを繰り返さないために、歴史に何を学ぶべきなのか。</p>
	<p><b>日本の近代とは何であったか：問題史的考察 / 三谷太一郎著</b> 岩波書店，2017.3 (岩波新書) S-210.6-Mi58n 政党政治を生み出し、資本主義を構築し、植民地帝国を出現させ、天皇制を精神的枠組みとした日本の近代を考察する。</p>
	<p><b>近現代日本史との対話【幕末・維新-戦前編】【戦中・戦後-現在編】 / 成田龍一著</b> 集英社，2019.1 (集英社新書) 210.6-N52kb-1 210.6-N52kb-2 人びとの動きが作り出す一つの流れ—人間関係から社会の仕組みまで—を「システム」として捉え、その変遷を軸に近現代日本の歴史を叙述する。【幕末・維新-戦前編】は、システムA1(国民国家の形成)・システムA2(帝国主義への展開)とシステムB1(戦争への動員体制)を軸に、【戦中・戦後-現在編】は一九三七年の日中戦争にはじまり、第二次世界大戦、敗戦とその後の占領期、そしてシステムB2(高度経済成長期)・システムC1(オイルショック以後)を経て、現在に至るまでの道筋を描く。</p>
	<p><b>江戸東京の明治維新 / 横山百合子著</b> 岩波書店，2018.8 (岩波新書1734) S-210.61-Y79e 諸大名の一斉帰国で人口は一挙に半減し、百万都市は瞬く間に衰退へと向かう。江戸の秩序が解体してゆく東京で、人びとは時代の変化に食らいつき、生き延びる道を求めて必死にもがきつづけた。名も残らぬ小さき人々の明治維新史。</p>
	<p><b>不死身の特攻兵：軍神はなぜ上官に反抗したか / 鴻上尚史著</b> 講談社，2017.11 210.75-Ko41f 【講談社現代新書2451】 鴻上尚史氏が生前の佐々木氏本人へインタビュー。なぜ、軍では絶対である上官の命令に背き、命の尊厳を守りぬけたのか。</p>
	<p><b>日本軍兵士：アジア・太平洋戦争の現実 / 吉田裕著</b> 中央公論新社，2017.12【中公新書2465】 C-210.75-Y86n 朝日18.6.23 310万人に及ぶ犠牲者を出した大戦。兵士の目線から、敗色濃厚になった時期以降の戦争の実態を追う。</p>
	<p><b>日本占領史：1945-1952：東京・ワシントン・沖縄 / 福永文夫著</b> 中央公論新社，2014.12 (中公新書) C-210.76-F79n 1945年の敗戦後、7年に及ぶ米国占領下、日本国憲法、日米安保などを基軸とした戦後体制はいかに創られたのか。</p>
	<p><b>岩波新書で「戦後」をよむ / 小森陽一、成田龍一、本田由紀著</b> 岩波書店，2015.7 (岩波新書) S-210.76-Ko67i 時代の経験と空気が刻まれた21冊の岩波新書を、文学者・歴史学者・社会学者が読み解く。現在と歴史の往還で徹底討議する。</p>
	<p><b>硫黄島：国策に翻弄された130年 / 石原俊著</b> 中央公論新社，2019.1 (中公新書2525) C-213.6-I74i 小笠原諸島の南端に位置する硫黄列島。南方地域への進出を鼓吹する南進論の盛り上がりにより、農業入植地となり、日米の戦いでは凄惨な戦場となった。その後は軍事基地として利用され、島民たちは島で暮らせない状況が続いている。</p>
	東洋史
<p><b>世界史のなかの文化大革命 / 馬場公彦著</b> 平凡社，2018.9 (平凡社新書891) 222.077-B12sb 文化大革命とは何だったのか。文革を中国国内で完結したものでなく、国際的要因と越境性を重視し、もうひとつの真実に迫る。</p>	
<p><b>入門東南アジア近現代史 / 岩崎育夫著</b> 講談社，2017.1 (講談社現代新書2410) 223-I96n 土着国家から欧米の植民地へ、日本による占領統治、戦後の独立と経済発展、そしてASEAN経済共同体の誕生までを描く。</p>	
<p><b>トルコ現代史：オスマン帝国崩壊からエルドアン時代まで / 今井宏平著</b> 中央公論新社，2017.1 (中公新書) C-226.6-I43t 1923年にムスタファ・ケマルによって建国したトルコ共和国。ケマルが掲げた6原則を通して、トルコの百年の足跡を振り返る。</p>	
<p><b>オスマン帝国：繁栄と衰亡の600年史 / 小笠原弘幸著</b> 中央公論新社，2018.12 (中公新書2518) C-226.6-O22o 王朝の黎明期から、玉座を巡る王子達の争い、ヨーロッパへの進撃、近代化の苦闘、そして滅亡へと至る600年を描く通史。</p>	
<p><b>9.11後の現代史 / 酒井啓子著</b> 講談社，2018.1【講談社現代新書2459】 228-Sa29k 9.11、イラク戦争、アラブの春、という中東の3つの起点から、混乱の世界、アメリカの陰り、テロ、難民、宗教対立を読み解く。</p>	
<p><b>世界史の中のパレスチナ問題 / 臼杵陽著</b> 講談社，2013.1 (講談社現代新書) 228.5-U95sb パレスチナの土地をめぐる政治的紛争に和平交渉の兆しはみられない。なぜ解決できないのか？ 難問の構造を歴史から読む。</p>	

貨幣が語るローマ帝国史：権力と図像の千年 / 比佐篤著 中央公論新社，2018.9 (中公新書2508)	C-232-H76k
古代ローマでは、発掘されただけでも数万種類にのぼる貨幣が存在した。彼らは貨幣を用いて何をアピールしようとしたのか。全時代を網羅した精選130点以上を収録。図像と銘文から読み解く、新しい古代ローマ史入門。	
イギリス帝国の歴史：アジアから考える / 秋田茂著 中央公論新社，2012.6 (中公新書)	C-233.06-A37i
今や、世界経済の中心はアジア太平洋経済圏にシフトしつつある。そのシステムの基盤を作った帝国の意義を明らかにする。	
イギリス現代史 / 長谷川貴彦著 岩波書店，2017.9 【岩波新書1677】	S-233.07-H36i
第二次世界大戦を起点とする福祉国家体制の形成、「英国病」とサッチャリズム、そして現在、戦後イギリスのあゆみを描く通史。	
ハプスブルク帝国 / 岩崎周一著 講談社，2017.8 (講談社現代新書2442)	234.6-I96h
広大な版図と多種多様な民族を支配下に置き、千年もの命脈を保った、元祖「日の沈むところなき帝国」の歴史を描く。	
物語ポーランドの歴史：東欧の「大国」の苦難と再生 / 渡辺克義著 中央公論新社，2017.7 (中公新書2445)	C-234.9-W46m
中世に隆盛を誇るが衰退し、隣接諸国による領土分割で国の独立を失ったポーランド人。列強に翻弄され続けた歴史を辿る。	
ナポレオン時代：英雄は何を遺したか / アリステア・ホーン著，大久保庸子訳 中央公論新社， 2017.12 (中公新書2466)	C-235.064-H89n
広大な帝国を築いたナポレオン。軍事以外にも不朽の事績として民法典の編纂が知られるが、彼の影響力は建造物、室内装飾、ファッションから教育制度などにまで広く及んだ。一代の英雄の全盛期を活写し、その「遺産」を検証する。	
フランス現代史 / 小田中直樹著 岩波書店，2018.12 (岩波新書1751)	S-235.07-O17f
1944年の解放から、「栄光の三〇年」、五月危機、石油危機、「ミッテランの実験」の挫折、新自由主義、マクロン政権成立まで。	
物語オランダの歴史：大航海時代から「寛容」国家の時代まで / 桜田美津夫著 中央公論新社， 2017.5 (中公新書2434)	C-235.9-Sa46m
16世紀、スペイン王権との戦いから「低地諸州」北部のオランダは独立。商機を求めてアジアや新大陸へ進出し、17世紀、新教徒中心の共和国は、世界でも最有力の国家となった。だが英蘭戦争、フランス革命の余波により没落。ナポレオン失脚後は王国として復活し、寛容を貴ぶ先進国として異彩を放つ。大航海時代から現代まで、人物を中心に政治、経済、絵画などを描く。	
フィレンツェ：比類なき文化都市の歴史 / 池上俊一著 岩波書店，2018.5 (岩波新書1719)	S-237-I33f
ローマの植民市として出発した古代、有力家門が鎬を削り都市の「自由」が高らかに掲げられた中世、そしてメディチ王朝期。いつの時代も、人々は自らの名誉にかけ、この町を崇高なまでの美の都に仕立て上げた。	
イタリア史10講 / 北村暁夫著 岩波書店，2019.3 (岩波新書1766)	S-237-Ki68i
ヨーロッパ・地中海世界の要たるこの地には、古来じつに多様な人びとが行きかい、ゆたかな歴史を織り上げてきた。リソルジメント(統一運動)以降の近現代史はもちろん、古代・中世における諸勢力の複雑な興亡も明快に叙述。北と南、都市と農村といった地域性や、文化史にも着目し、その歩みをとらえる。	
ロシア革命史入門 / 広瀬隆著 集英社インターナショナル，集英社(発売)，2017.2 【インターナショナル新書】	238.07-H72r
日刊ゲンダイ17.3.7 第一次世界大戦を終わらせ、農民や労働者を貧困から救い、生活環境を改善する崇高な理想を掲げた国家が、奇跡的な成功を収めた後、いかに当初の精神を失い、粛清の嵐が吹き荒れる独裁体制へと変貌を遂げていったのか。	
ロシア革命：破局の8か月 / 池田嘉郎著 岩波書店，2017.1 (岩波新書)	S-238.07-I32r
初の社会主義国家樹立の契機となったロシア革命から100年。あの時潰え、民衆の間に新たに生まれたものは何だったのか。	
物語フィンランドの歴史：北欧先進国「バルト海の乙女」の800年 / 石野裕子著 中央公論新社， 2017.10 (中公新書2456)	C-238.6-I79m
古来よりスウェーデン王国下にあったフィンランド。19世紀にロシア帝国下、「大公国」となり自治を獲得。ロシア革命、内戦を経て独立する。第2次世界大戦では、ソ連に侵略され領土割譲。その後ナチ・ドイツに接近し、近親民族の「解放」を唱えソ連に侵攻するが敗退。戦後は巨大な隣国を意識した中立政策を採り、教育、福祉、デザイン、IT産業などで、特異な先進国となった。	
新書アフリカ史 / 宮本正興，松田素二編 講談社，2018.11 (講談社現代新書2503)	240-Sh69.a2
変化の激しいアフリカ現代史を新たに書き加え、従来の記述も新しい知見や主張に基づいて内容を大幅に見直した改訂新版。	
カストロとゲバラ / 広瀬隆著 集英社(発売)，2018.2 【インターナショナル新書020】	259.1-H72c
東京18.4.15 キューバ危機という、核戦争の恐怖を乗り越えた二人の革命家から、何を学ぶことができるのか。キューバ史を描く。	

伝記	昭和の怪物七つの謎 / 保阪正康著 講談社, 2018.7 (講談社現代新書2484) 281-H91s 新書大賞2019第6位 昭和史研究の第一人者が出会った「戦争の目撃者たち」。東條英機、石原莞爾、犬養毅、渡辺和子、瀬島龍三、吉田茂が残した「歴史の闇」に迫る。
	平成の終焉：退位と天皇・皇后 / 原武史著 岩波書店, 2019.3 (岩波新書1763) S-288.41-H31h 平成とは天皇制の新たなスタイルが確立された時代だった。日本中をくまなく訪ね歩き、自らの思いを国民に直接語りかけてきた天皇明仁と皇后美智子。二人が生み出した「平成流」は退位後も受け継がれていくのか。皇太子(妃)時代からの足跡を丹念にたどり、「象徴」と国民との奇妙な政治的関係性を問い直す。
	ナポレオン四代：二人のフランス皇帝と悲運の後継者たち / 野村啓介著 中央公論新社, 2019.2 C-288.4935-N95n (中公新書2529) コルシカ島出身の一軍人から皇帝にのぼりつめた英雄ナポレオン。ヨーロッパ各地に侵攻し、フランス革命がうみだした近代的価値を広めた。一八四八年の二月革命から大統領に当選、クーデターによって皇帝になったその甥、三世。ともに戦争に敗れて歴史の表舞台から退く。革命と激変の時代に、「ナポレオン」は議会や民衆にどう利用され、また求められたのか。誰もが知る二人の皇帝とその息子に光を当て、ナポレオン一族からフランス近代史を読み解く。
	生きて帰ってきた男：ある日本兵の戦争と戦後 / 小熊英二著 岩波書店, 2015.6 (岩波新書) S-289.1-O26o 戦争体験は人々をどのように変えたのか。著者が自らの父・謙二の人生を通して、二〇世紀の戦争と戦後の歴史を描き出す。
	国境のない生き方：私をつくった本と旅 / ヤマザキマリ著 小学館, 2015.4 (小学館新書) 289.1-Y4811y 明るく強く生きてこられたのは、本と旅、人との出会いのおかげだった。『テルマエ・ロマエ』作者の体験的人生論。
	ガンディー：秘教思想が生んだ聖人 / 杉本良男著 平凡社, 2018.12 (平凡社新書899) 289.2-G19s 人類の遺産である「非暴力」思想はいかにして生まれたか。近代化の過程で科学万能主義に抗い誕生した秘教思想との関わりを軸に、ガンディーの知られざる実像に迫る評伝。
	ガンディー：平和を紡ぐ人 / 竹中千春著 岩波書店, 2018.1 【岩波新書1699】 S-289.2-G19t 暗殺から70年。非暴力不服従で社会を民衆の側から変革しようとした、ガンディーの生き方と思想は、尽きせぬ恵みをもたらす。
	チェ・ゲバラ：旅、キューバ革命、ボリビア / 伊高浩昭著 中央公論新社, 2015.7 (中公新書) C-289.3-G91i 革命に目覚めた南米旅行、キューバでの奮闘、そしてボリビアに死すまで。彼の遺した文章と関係者の取材から実像に迫る。
	ヒトラーとナチ・ドイツ / 石田勇治著 講談社, 2015.6 (講談社現代新書) 289.3-H77i なぜ文明国ドイツにヒトラー政権が誕生したのか。最新研究から、その疑問に答える。ヒトラーの実像からホロコーストの真実まで。
	マーティン・ルーサー・キング：非暴力の闘士 / 黒崎真著 岩波書店, 2018.3 (岩波新書1711) S-289.3-Ki43k 人びとを非暴力による社会変革へと導いたキング牧師(一九二九-一九六八)。栄光の前半生だけでなく、貧困のないアメリカを夢見た彼の後半生を忘れてはならない。武器をとらずに闘い抜いた、苛烈な生涯をえがく。
	ナポレオン：最後の専制君主、最初の近代政治家 / 杉本淑彦著 岩波書店, 2018.2 S-289.3-N49s 【岩波新書1706】 コルシカという周縁の地に生をうけ、革命の荒波を乗り切り、皇帝にまで登りつめたナポレオンとは、いかなる人間なのか。
	スターリン：「非道の独裁者」の実像 / 横手慎二著 中央公論新社, 2014.7 (中公新書) C-289.3-St1y 「非道の独裁者」はなぜ今もロシアで支持されるのか。生い立ちから、ソ連を率いてヒトラーやアメリカと争うまで、生涯をたどる。
	地理
ふしぎな県境：歩ける、またげる、愉しめる：カラー版 / 西村まさゆき著 中央公論新社, 2018.5 C-291.09-N84f 【中公新書2487】 西日本18.6.8 こんな県境が、なぜ生まれたのか。実際に行ってみると何があるのか。県境マニアが全国13カ所の県境を検証。	
紀行	京都の歴史を歩く / 小林丈広, 高木博志, 三枝暁子著 岩波書店, 2016.1 (岩波新書) S-291.62-Ko12k 一五の「道」と「場」をめぐる、本当の京都に出合う小さな旅へ。かつて都に生きた人びとの暮らしと営みに思いをはせる。
	美しきイタリア22の物語 / 池上英洋著 光文社, 2017.8 (光文社新書897) 293.7-I33u 歴史上の人物たちは、どのように考え、暮らしていたのだろうか。城や宮殿は、そこに住んだ王家や貴族の歴史をどのように伝えてくれているのだろうか。イタリアが世界に誇る芸術の数々は、どのように生み出されてきたのだろうか。イタリアの魅力を探る。



	<p>哲学の最新キーワードを読む：「私」と社会をつなぐ知 / 小川仁志著 講談社，2018.2 301-O24t 【講談社現代新書2465】 「私」と社会をいかにつなぐかを考える、まったく新しい公共哲学。新時代を生き抜くために、最低限おさえるべき思想。</p>
	<p>テレビに映らない北朝鮮 / 鴨下ひろみ著 平凡社，2018.3 (平凡社新書870) 302.21-Ka41t 「不機嫌な独裁者」はどんな理想像を描き、国際社会といかに関わり合っているのか。この国の庶民はどんな息遣いをしている</p>
	<p>台湾の若者を知りたい / 水野俊平著 岩波書店，2018.5 (岩波ジュニア新書873) 302.224-Mi96t 台湾の若者の学校生活、受験戦争、兵役、就活、台湾人との付き合い方…。現地取材を重ねて知った、台湾人の日常生活とは。</p>
社会・文化事情	<p>ドイツ人はなぜ、年290万円でも生活が「豊か」なのか / 熊谷徹著 青春出版社，2019.2 302.34-Ku33db (青春新書intelligence) ドイツ人の平均可処分所得(手取り)は年290万円と意外に低い。しかも、消費税(付加価値税)は19%と高い。にもかかわらず、多くのドイツ人が「生活に満足している」のはなぜか? 「ドイツ流・お金の振り回されない」生き方を明らかにした一冊。</p>
	<p>たとえ世界が終わっても：その先の日本を生きる君たちへ / 橋本治著 集英社，2017.2 304-H381t (集英社新書) 成長と拡大を求め続ける資本主義経済の終焉を確信。資本主義の終わりとは何か。その後を我々はどう生きるべきなのか。</p>
	<p>使ってはいけない集団的自衛権 / 菊池英博 [著] KADOKAWA，2018.8 (角川新書) 304-Ki24t 朝鮮半島外交、米中関係などを見誤り、時代遅れの外交政策で孤立する日本。その最たるものが「集団的自衛権の行使」だ。日本再生のために採るべき策とは何か。</p>
	<p>日本をどのような国にするか：地球と世界の大問題 / 丹羽宇一郎著 岩波書店，2019.2 S-304-N89n (岩波新書1761) トランプVS習近平の貿易戦争のゆくえは? 地球温暖化、巨大地震など迫りくる自然災害の脅威にどう立ち向かうか。AIが人間の仕事を奪うというのは本当か? 日本を取り巻くこれらの問題群とどう向き合い、国の立ち位置をどこに求めたらよいか。元中国大使・伊藤忠商事会長の著者が専門家と議論しながら考える。</p>
	<p>リベタリアニズム：アメリカを揺るがす自由至上主義 / 渡辺靖著 中央公論新社，2019.1 C-309.1-W46L (中公新書2522) アメリカ社会に広がりつつあるリベタリアニズム(自由至上主義)。公権力を極限まで排除し、自由の極大化をめざす立場だ。リベラルのように人工妊娠中絶、同性婚に賛成し、死刑や軍備増強に反対するが、保守のように社会保障費の増額や銃規制に反対するなど、従来の左右対立の枠組みではとらえきれない。トランプ政権誕生後のアメリカ各地を訪れ、実情を報告。</p>
社会思想	<p>100語でわかるマルクス主義 / ジェラルド・デュメニル, ミシェル・レヴィ, エマニュエル・ルノー著; 井形和正, 斎藤かぐみ訳 白水社，2015.2 (文庫クセジュ) Q-309.3-D96h 弁証法的・史的唯物論、『共産党宣言』の基になる階級闘争、『資本論』の剰余価値などの理論を100のキーワードで解説。</p>
	<p>アナキズム：一丸となってバラバラに生きろ / 栗原康著 岩波書店，2018.11 (岩波新書1745) S-309.7-Ku61a ひとをしたがわせたり排除したりするのをアナキーとはいわない。どんな支配もいらぬ。アナキーとは権力をぶちぬいてやるってことだ。目的にも、自由にも、アナキズムにも縛られるな。主義を超えた根源的な問いが、躍動する文体で炸裂する。</p>
	<p>学校が教えないほんとうの政治の話 / 斎藤美奈子著 筑摩書房，2016.7 (ちくまプリマー新書257) 310.4-Sa252g 若者の投票率は低いのは「ひいき」がないからだ。政治参加への第一歩は、どっちがホームで、どっちがアウェイか決めること。この本を読んで、あなたの政治的ポジションを見つけてください。実践的政治入門。</p>
政治学	<p>正義とは何か：現代政治哲学の6つの視点 / 神島裕子著 中央公論新社，2018.9 C-311.1-Ka38s (中公新書2505) 「公正な社会」とはどういったものか。米国の政治哲学者ロールズは、1970年代以降、社会のあり方を根底から問い直した。ロールズの考えを起点にリベタリアニズム(自由至上主義)やコミュニタリアニズム(共同体主義)など六つの思想から正義を問う。</p>
	<p>ハンナ・アーレント：「戦争の世紀」を生きた政治哲学者 / 矢野久美子著 中央公論新社，2014.3 C-311.28-A68y (中公新書) ユダヤ人としての出自、ハイデガーとの出会い、ヤスパースによる薫陶、ナチ台頭による亡命生活、アイヒマン論争などを描く。</p>
	<p>「右翼」の戦後史 / 安田浩一著 講談社，2018.7 (講談社現代新書2485) 311.3-Y62u 消えゆく戦前右翼、反米から「親米・反共」、政治・暴力組織との融合、新右翼の誕生、宗教右派の台頭と日本会議の躍進、ネット右翼の跋扈など、戦後右翼の変遷をたどる。</p>
	<p>ポピュリズムとは何か：民主主義の敵か、改革の希望か / 水島治郎著 中央公論新社，2016.12 C-311.7-Mi96p (中公新書) 大衆迎合主義とも訳されるポピュリズム。イギリスのEU離脱、トランプ米大統領誕生など、世界で猛威を振るう、その本質とは。</p>

政治史	安倍政治100のファクトチェック / 南彰, 望月衣塑子著 集英社, 2018.12 (集英社新書0961) 312.1-Mi37a ファクトチェックとは、首相、閣僚、与野党議員、官僚らが国会などで行った発言について、各種資料から事実関係を確認し、正しいかどうかを評価するもの。第二次安倍政権発足後のさまざまな発言を100の項目別に整理し、○、△、×で判定。
	戦後政治を終わらせる：永続敗戦の、その先へ / 白井聡著 NHK出版, 2016.4 (NHK出版新書) 312.1-Sh81s 資本制社会の行き詰まり、排外主義、反知性主義の横行などを踏まえ、現代日本政治が劣化した起源を辿る。
	戦前日本のポピュリズム：日米戦争への道 / 筒井清忠著 中央公論新社, 2018.1 【中公新書2471】 C-312.1-Ts93s 日経18.2.24東京読売2.25 ポピュリズムが劇場型大衆動員政治を意味するのであれば、日本は戦前期に経験があった。
	メルケルと右傾化するドイツ / 三好範英著 光文社, 2018.2 (光文社新書930) 312.34-Mi91m 英国のEU離脱、トランプ大統領誕生、そして2017年9月のドイツ総選挙における右派政党(AfD)の躍進。いずれの危機にも深く関わってきたのがメルケルだった。メルケルの生涯と業績をできるだけ客観的にたどり、その強さの秘密を分析する。
政治事情	ルポトランプ王国：もう一つのアメリカに行く / 金成隆一著 岩波書店, 2017.2 (岩波新書) S-312.53-Ka46r なぜトランプなのか。山あいのバー、ダイナー、床屋、時には自宅に上がり込んで、将来を案ずる勤勉な人たちの声を聴く。
	ルポ漂流する民主主義 / 真鍋弘樹著 集英社, 2018.8 (集英社新書0946B) 312.53-Ma43r 中間層の没落、ポピュリズムの台頭、危機に瀕した民主主義…。朝日新聞前ニューヨーク支局長が世界で同時多発的に起きる「有権者の乱」を描き切った、国際政治への提言にして渾身のルポルタージュ。
	大統領を裁く国アメリカ：トランプと米国民主義の闘い / 矢部武著 集英社, 2018.3 (集英社新書0927A) 312.53-Y11d 大統領を追及するメディア、議会・裁判所、国民のデモ…トランプ政権下の一連の動きを検証し、ニクソンのケースと比較しながら国家の最高権力者を辞めさせられる米国民主義の強靭さを描く。
	トランプのアメリカに住む / 吉見俊哉著 岩波書店, 2018.9 (岩波新書1736) S-312.53-Y91t 非日常が日常化した異様な政権下、この国が抱える深い暗部とそれに対抗する人々の動きをリアルタイムで追う。
天皇制	近代天皇論：「神聖」か、「象徴」か / 片山杜秀, 島菌進著 集英社, 2017.1 (集英社新書) 313.6-Ka84k 「国民の統合」が危機に瀕し、民主主義の基盤が揺らぐこの時代に、あるべき「新しい天皇」の姿とは何か。画期的な対論。
	「天皇機関説」事件 / 山崎雅弘著 集英社, 2017.4 (集英社新書) 313.6-Y48t 憲法学の第一人者で天皇機関説を主張する美濃部達吉が、国会で右派政治家に糾弾され、立憲主義が停止した事件を描く。
国家と個人	スノーデン日本への警告 / エドワード・スノーデン [ほか] 著 集英社, 2017.4 (集英社新書) 316.1-Sn6 超監視社会の脅威とは。日本人に向け、今起きている深刻な事態や権力を監視するための方途をスノーデンが明快に解説。
	スノーデン監視大国日本を語る / エドワード・スノーデン [ほか] 著 集英社, 2018.8 (集英社新書0945A) 316.1-Sn6b 日本関連の秘密文書が新たに暴露され、そこには大量監視システムXKEYSCOREがアメリカ政府から日本政府に譲渡されていることが記されていた。スノーデンと日米の識者、プライバシー権に関する国連特別報告者が対策とビジョンを語る。
	ラインデから読む現代フランス：政治と宗教のいま / 伊達聖伸著 岩波書店, 2018.3 (岩波新書1710) S-316.2-D44L 数々のテロ事件を受け、フランスはいま政治と宗教、共生と分断のはざまに揺れている。ラインデとは何か。憲法1条が謳う「ライクな(教育などが宗教から独立した、非宗教的な、世俗の)共和国」は何を擁護しようのか。現代の難題を考える。
階級	新・日本の階級社会 / 橋本健二著 講談社, 2018.1 【講談社現代新書2461】 316.3-H38s この40年間の政府の無策により、現代日本は、金持ち以外には非常に生きるのが困難な、恐るべき社会になってしまった。
	労働者階級の反乱：地べたから見た英国EU離脱 / ブレイディみかこ著 光文社, 2017.10 【光文社新書912】 316.34-B71r 英国国民投票でのEU離脱派の勝利は、「下層に広がった醜い排外主義の現れ」なのか。英国労働者階級の視点から考察する。
民族・人種問題	民族紛争 / 月村太郎著 岩波書店, 2013.6 (岩波新書) S-316.8-Ts63m クロアチアとボスニア、コソヴォ、ルワンダ、スリランカなど六つの紛争の経緯を解説し、軍事介入やジェノサイドの実態を考察。
	ヘイトスピーチとは何か / 師岡康子著 岩波書店, 2013.12 (岩波新書) S-316.81-Mo77h 差別を扇動し、民主主義社会を破壊する言葉の暴力と向き合う国際社会の経験と制度を紹介し、共に生きる社会の方途を探る。
	ヘイトスピーチ：「愛国者」たちの憎悪と暴力 / 安田浩一著 文藝春秋, 2015.5 (文春新書) 316.81-Y62h ネットで醸成された右翼的言動、「ネトウヨ」が、街頭デモにまで進出してきたのは何故なのか。「在特会」とは、どんな組織なのか。
	アメリカの排外主義：トランプ時代の源流を探る / 浜本隆三著 平凡社, 2019.1 (平凡社新書902) 316.853-H24a トランプ大統領の自国第一主義、「アメリカファースト」が世界を翻弄し、排外主義の波が起きている。魔女狩りや秘密結社、黒人奴隷制に遡り、歴史的な座標軸から現代の問題を捉えなおす。世界的な排外主義の源流とその力学を解明する。
	ユダヤ人とユダヤ教 / 市川裕著 岩波書店, 2019.1 (岩波新書1755) S-316.88-I14j 啓典の民、離散の民、交易の民、書物の民、さまざまな呼び名をもつユダヤの人びと。苦難の歩みのなかで深遠な精神文化を育む一方、世を渡る現実的な悟性を磨いてきた歴史をたどりながら、その信仰、学問、社会を知る。
ナチズムとユダヤ人：アイヒマンの人間像 / 村松剛 [著] 新版, KADOKAWA, 2018.11 (角川新書) 316.88-Mu48n 恐るべきナチスによるユダヤ人絶滅計画。その実態と思想は何か、この計画の実際の推進者であったアイヒマンの思想はどのように形成されたのか。当時、イスラエルに赴いてアイヒマン裁判を直に傍聴した著者が、この謎に独自の光をあてた。	

行政	官僚の掟：競争なき「特権階級」の実態 / 佐藤優著 朝日新聞出版, 2018.11 (朝日新書694) 317.3-Sa851k 特殊な「独自文化」に生息する官僚たち。難関試験を突破したひとにぎりの超エリートが、政策を作り、政治を動かし、実質、国家を「統治」している。どんなに不祥事を起こそうと変わることのない「全体の奉仕者」の実態とは何か?
	公文書問題と日本の病理 / 松岡資明著 平凡社, 2018.10 (平凡社新書895) 317.6-Ma86k 森友学園問題、加計学園問題、陸上自衛隊南スーダン派遣PKO部隊日報問題…。公文書の管理を巡る問題が続出している。なぜ、この国では民主主義の根幹である、「記録」が疎かにされるのか。
	公文書問題：日本の「闇」の核心 / 瀬畑源著 集英社, 2018.2 【集英社新書0920A】 317.6-Se12kb 東京18.3.11 公文書が破棄、未作成とされ、隠蔽される事態が行政の中枢で常態化している。責任を曖昧にする理由とは何か。
	警察捜査の正体 / 原田宏二著 講談社, 2016.1 (講談社現代新書) 317.75-H32k 司法取引の導入、通信傍受対象の拡大など、警察の捜査権限がなし崩し的に拡大しつつある。警察国家の危険を警告する。
外交	限界の現代史：イスラームが破壊する欺瞞の世界秩序 / 内藤正典著 集英社, 2018.10 319-N29gb (集英社新書0954A) シリア、イエメンなど中東で頻発する虐殺や弾圧、それから逃れる大量の難民、欧米で繰り返されるテロ。その背景には、アメリカ、EU、国連、領域国民国家、西欧啓蒙思想など、世界の安定を担ってきたシステムと秩序の崩壊という現実がある。
	知ってはいけない：隠された日本支配の構造 / 矢部宏治著 講談社, 2017.8 319.1053-Y11s 【講談社現代新書2439 2499】 1: 隠された日本支配の構造 2: 日本の主権はこうして失われた 319.1053-Y11s-2 この国を動かす「本当のルール」とは。なぜ、日本は米国の意向を拒否できないのか。米軍が日本に駐留し続ける理由を解く。
国際問題	近東の地政学：イスラエル、パレスチナ、近隣のアラブ諸国 / アレクサンドル・ドゥフェ著；幸田礼 雅訳 白水社, 2017.4 (文庫クセジュ) Q-319.26-D53c 歴史・地理・宗教・社会・政治、どの側面からみても複雑な近東とこの地域の紛争の解説を、地政学という観点から試みる。
	アメリカとヨーロッパ：揺れる同盟の80年 / 渡邊啓貴著 中央公論新社, 2018.8 (中公新書2504) C-319.5303-W46a 第二次世界大戦の終結後、世界は超大国アメリカとソ連の動向に左右される。デタント(緊張緩和)、中東危機、ソ連崩壊、9・11、そして現代へ…。本書は、複雑な軌跡を歩んだ米欧の80年を、同盟関係に軸足を置きながら論じる。
憲法	日米安保体制史 / 吉次公介著 岩波書店, 2018.10 (岩波新書1741) S-319.8-Y921n 日本の対米協力、米軍基地の運用、米軍基地問題をめぐる日米関係史の三つの要点を軸に、安保体制の全歴史を描き出す。
	五日市憲法 / 新井勝紘著 岩波書店, 2018.4 (岩波新書1716) S-323.1-A62i 1968年、東京都西多摩郡五日市町。旧家の土蔵で偶然見つかった紙綴りが、ひとりの学生を歴史家に変える。紙背から伝わる、自由民権の息吹と民主主義への熱き思い。起草者「千葉卓三郎」とは何者なのか?明治に生まれた民衆憲法の水脈をさぐる。
	憲法という希望 / 木村草太著 講談社, 2016.9 (講談社現代新書) 323.14-Ki39kc 憲法に目覚める本。国家の失敗を防ぐのが憲法であり、私たち個人が憲法を使いこなす意思を持たなければならないと語る。
	比較のなかの改憲論：日本国憲法の位置 / 辻村みよ子著 岩波書店, 2014.1 (岩波新書) S-323.14-Ts44h 改憲手続、憲法擁護義務、押し付け憲法論、国民の義務と自由、個人と家族、非武装平和主義を比較憲法の視点から検討。
	広告が憲法を殺す日：国民投票とプロパガンダCM / 本間龍, 南部義典著 集英社, 2018.4 323.149-H85k 【集英社新書】 朝日18.5.12 国民投票法には致命的な欠陥がある。海外では多くの国で原則禁止となっている広告規制がほとんどないのだ。
	「改憲」の論点 / 木村草太 [ほか] 著 集英社, 2018.7 (集英社新書0939A) 323.149-Ka21b 「立憲デモクラシーの会」の主要メンバー8名が提示する8つのテーマ、「自衛隊明記」「新九条論」「専守防衛」「改憲勢力」「アメリカ」「解散権」「国民投票」「立憲主義」を論じる。
	憲法改正とは何だろうか / 高見勝利著 岩波書店, 2017.2 (岩波新書) S-323.149-Ta43k 改正規定96条の成立過程、「改正手続法」の成立過程と問題点、安倍首相による憲法改正にどう向き合うか、までを論じる。
	ナチスの「手口」と緊急事態条項 / 長谷部恭男, 石田勇治著 集英社, 2017.8 323.34-H35n 【集英社新書0896A】 ヒトラー独裁を招いた緊急事態条項。世界で最も民主的だといわれたワイマール憲法の「落とし穴」が、この条項だったのだ。
	「法の支配」とは何か：行政法入門 / 大浜啓吉著 岩波書店, 2016.2 (岩波新書) S-323.9-O27h 社会と国家はどういう関係にあるのか。立憲主義、国会、内閣のあり方等、憲法に関わることにも言及し、今の日本政治を問う。
	日本の無戸籍者 / 井戸まさえ著 岩波書店, 2017.10 【岩波新書1680】 S-324.87-I19n 少なくとも一万人は存在するとされる日本の無戸籍者。戸籍制度の曖昧さ、もろさを無戸籍の歴史と多くの事例から考察する。

	死刑制度の歴史 / ジャン=マリ・カルバス著 ; 吉原達也, 波多野敏訳 白水社, 2006.12 (文庫クセジュ) 国家は、殺人犯や危険な犯罪者を殺す権利を有するのか? 古代から現代までの死刑制度の歴史と現況を解説する必読書。	Q-326.41-C16s
刑法	よみがえる戦時体制: 治安体制の歴史と現在 / 萩野富士夫著 集英社, 2018.6 (集英社新書0935A) 2017年に成立、施行された「テロ等準備罪」こと共謀罪。「共謀」の判断基準も曖昧で、治安維持法との類似を指摘する識者も多い。国家の暴力装置たる警備公安警察等の権力の恣意的な運用を抑止、是正するために必要なのは何か。	326.81-O25yb
	治安維持法と共謀罪 / 内田博文著 岩波書店, 2017.12 【岩波新書】 治安維持法は、例外から原則の制度に逆転し、拡大された。共謀罪が創設され、大きく変容する日本の刑事法を問う。	S-326.81-U14cb
司法	裁判の非情と人情 / 原田國男著 岩波書店, 2017.2 (岩波新書) 二〇件以上の無罪判決を言い渡した元東京高裁判事が、法廷での一コマから、裁判員制度、冤罪、死刑まで、胸のうちの綴る。	S-327-H32s
	ニッポンの裁判 / 瀬木比呂志著 講談社, 2015.1 (講談社現代新書) 冤罪連発の刑事訴訟、人権無視の国策捜査、国民の権利を一顧だにしない住民訴訟など、劣化した日本の裁判を描く。	327-Se16n
	裁判所ってどんなところ?: 司法の仕組みがわかる本 / 森炎著 筑摩書房, 2016.11 (ちくまプリマー新書267) 司法権の独立、三審制など司法制度の仕組みや、事件を裁く裁判官の素顔、法廷内の決まりから、法学、憲法学、法哲学の考え方まで解説。	327.12-Mo45s
	絶望の裁判所 / 瀬木比呂志著 講談社, 2014.2 (講談社現代新書) 33年間裁判官を務めた著者が、知られざる裁判所腐敗の実態を告発する。情実人事に権力闘争、思想統制、セクハラ…など。	327.12-Se16z
	冤罪と裁判 / 今村核著 講談社, 2012.5 (講談社現代新書) 日本の刑事裁判は有罪率99.9%。なぜ冤罪は起きるのか? 裁判員制度でどう変わったのか? 冤罪弁護士が語る真実。	327.6-I44eb
	虚偽自白を読み解く / 浜田寿美男著 岩波書店, 2018.8 (岩波新書1733) 無実の人が罪を自白し、犯行内容を語ってしまう、そしてかつての自白を撤回する。足利事件、狭山事件、袴田事件(清水事件)、日野町事件を実例に、冤罪の温床にもなってきた虚偽自白を見抜き、無罪を勝ち取る道筋を示す。	S-327.626-H22k
	入門国境学: 領土、主権、イデオロギー / 岩下明裕著 中央公論新社, 2016.3 (中公新書) 領土問題や移民問題、サイバー時代の安全保障などを考えるヒントになる「国境学」。新しい学問分野のはじめての入門書。	C-329.23-I96n
経済学	経済学のすすめ: 人文知と批判精神の復権 / 佐和隆光著 岩波書店, 2016.10 (岩波新書) 経済学の古典から、思考力・判断力・表現力をみがくこと。新古典派とケインズ派双方の理論から、批判精神を培うことを説く。	S-331-Sa93kb
	現代経済学: ゲーム理論・行動経済学・制度論 / 瀧澤弘和著 中央公論新社, 2018.8 (中公新書2501) ミクロ及びマクロ経済学はもとより、ゲーム理論、行動経済学や神経経済学などの大きな潮流を捉え、実験や制度、経済史といった重要な領域についても解説。経済学の大きな見取り図を示す。	C-331-Ta73g
	人間の経済 / 宇沢弘文著 新潮社, 2017.4 【新潮新書713】 東京17.6.4 人間と経済のあるべき関係を追求し続けた経済思想の巨人が、自らの軌跡とともに語った、ラスト・メッセージ。	331.04-U99n
	はじめての経済思想史: アダム・スミスから現代まで / 中村隆之著 講談社, 2018.6 (講談社現代新書2482) アダム・スミス、ミル、マーシャル、マルクス、ケインズら経済思想家は、現実といかに格闘したのか? 富の所有者の「利益をあげるべし」という指令と、富の活用者=働く者たちの関係はどのように考えればよいのか? 経済思想の歴史がわかる入門書。	331.2-N372h
	経済学者はこう考えてきた: 古典からのアプローチ / 根井雅弘著 平凡社, 2018.10 (平凡社新書893) マルクスの『資本論』は、資本主義崩壊の論理を解明し、ケインズの『雇用、利子および貨幣の一般理論』は、マクロの経済安定を図る「有効需要の原理」を確立した。資本主義とは何か、経済学の変遷、経済学者の思想や学説など、経済学の初歩を説く。	331.2-N621kb
	ガルブレイス: アメリカ資本主義との格闘 / 伊東光晴著 岩波書店, 2016.3 (岩波新書) 『ゆたかな社会』など多数の著作で知られ、アメリカを代表する経済学の巨人は何と闘い続けたのか。革新的な思想に迫る。	S-331.253-G17Yi
	貧乏物語: 現代語訳 / 河上肇著; 佐藤優訳・解説 講談社, 2016.6 (講談社現代新書) 貧困の構造を描いた百年前のベストセラー、河上肇『貧乏物語』を佐藤優が読む。なぜ豊かな国に多数の貧乏人がいるのか?	331.6-Ka94b
	マルクス資本論の哲学 / 熊野純彦著 岩波書店, 2018.1 【岩波新書1696】 マルクスの原理的な思考の深度と強度、そして「資本制が押しつぶしてゆくちいさな者たちへの視線」に寄り添い語る入門書。	S-331.6-Ma59sYk
	マクロ経済学の核心 / 飯田泰之著 光文社, 2017.6 (光文社新書889) 経済学は浮世離れた理論ではない。情勢を分析し、未来を予測するために拠って立つ礎となる。景気のトレンド、国の政策の是非、会社や業界の先行き、賃金は適正か、貯蓄か投資かなど、判断し行動するためには、マクロ経済学の知識が不可欠だ。	331.7-I26m
	ミクロ経済学入門の入門 / 坂井豊貴著 岩波書店, 2017.4 【岩波新書】 数式は使わず、簡略な図で説明する「入門の入門」。これから学び始める人、ミクロが分からなくて困っている人に最適の一冊。	S-331.7-Sa29
市場って何だろう: 自立と依存の経済学 / 松井彰彦著 筑摩書房, 2018.7 (ちくまプリマー新書302) 自立のための様々な依存先を提供しうる市場という存在。市場をゲーム理論で読み解きながらそのあり方・可能性を考える。	331.845-Ma77s	

経済史	グローバル経済史入門 / 杉山伸也著 岩波書店, 2014.11 (岩波新書) S-332-Su49g 地域や国によって、なぜ所得や生活水準に大きな格差があるのか? 国際的な金融危機にはどのような背景があるのか?
	入門資本主義経済 / 伊藤誠著 平凡社, 2018.2 【平凡社新書866】 332.06-I89n 不況、格差・貧困問題、将来不安…、新自由主義により社会的統御から解き放たれた競争的市場経済は、何をもたらしたか。
	里山資本主義：日本経済は「安心の原理」で動く / 藻谷浩介, NHK広島取材班 [著] KADOKAWA (発売), 2013.7 (角川oneテーマ21) 332.106-Mo82s 2014新書大賞 コミュニティ復活を果たし、地域経済の自立をもたらす究極のシステムを、日本経済の新しい原理として示す。
経済事情	日本経済入門 / 野口悠紀雄著 講談社, 2017.3 【講談社現代新書2416】 332.106-N931nc 日本経済の現状を説明するだけでなく、現状認識の上に、どのような問題があるかを明らかにし、問題の処方箋を呈示している。
	中国経済講義：統計の信頼性から成長のゆくえまで / 梶谷懐著 中央公論新社, 2018.9 (中公新書) C-332.22-Ka23c 「中国の経済統計は信頼できるか」「不動産バブルを止められるか」「共産党体制の下で持続的な成長は可能か」など、中国経済が直面する根本的な課題について分析。表面的な変化の奥にある、中国経済の本質を明らかにする。
	世界経済入門 / 野口悠紀雄著 講談社, 2018.8 (講談社現代新書2473) 333.6-N93s 世界経済を読み解く上で重要な自由貿易や国際金融の仕組みなどを、基礎から理解できるように分かりやすく解説する。
移民	在日朝鮮人：歴史と現在 / 水野直樹, 文京洙著 岩波書店, 2015.1 (岩波新書) S-334.41-Mi96z 朝鮮が解放されて70年。植民地期の在日朝鮮人の形成、解放から高度成長期以後の世代交代と多様化、現在までを描く通史。
	ふたつの日本：「移民国家」の建前と現実 / 望月優大著 講談社, 2019.3 (講談社現代新書2516) 334.41-Mo12f 日本はすでに「移民国家」だ。この30年間で在日外国人の数は94万人から263万人へと約3倍に増加し、永住権を持つ外国人も100万人を突破した。いま必要なのは、この「遅れてきた移民国家」の簡単な見取り図だ。
	揺れる移民大国フランス：難民政策と欧州の未来 / 増田ユリヤ著 ポプラ社, 2016.2 (ポプラ新書088) 334.435-Ma66y それでも移民や難民を受け入れようとする人々。移民として懸命に生きる人々と市民たちの草の根の活動の中に希望を見出す。
	移民国家アメリカの歴史 / 貴堂嘉之著 岩波書店, 2018.10 (岩波新書1744) S-334.453-Ki13i アメリカ合衆国は「移民の国」—誰もが口にするこの国のかたちは、どう形成され、いかに変貌してきたのか。日本や中国などアジア系移民の歴史経験に着目して、アメリカ史をとらえなおす。
	ルポ不法移民とトランプの闘い：1100万人が潜み見えないアメリカ / 田原徳容著 光文社, 2018.10 (光文社新書971) 334.453-Ta19r トランプ大統領の就任後、「移民の国」アメリカは様々な形で不法移民への圧力を強めている。受け入れるか、拒むか、それとも無視か。読売新聞ロサンゼルス特派員が、150人を超える不法移民とその周辺を追いかけた渾身のルポ。
企業	ブラック企業 1: 日本を食いつぶす妖怪 2: 「虐待型管理」の真相 / 今野晴貴著 文藝春秋, 2012.11 (文春新書887, 1003) 335.21-Ko75b 335.21-Ko75b-2 若者を使い潰す「ブラック企業」の実態が知られるようになったのに、被害は広がるばかり。なぜ入ってしまうのか? なぜ辞めないのか? そのカギは「虐待型管理」という経営戦略にあった。労働相談の現場からの解決策決定版。
	ブラック企業ビジネス / 今野晴貴著 朝日新聞出版, 2013.11 (朝日新書) 335.21-Ko75bb なぜ悪辣な企業がこの社会に根をはり、増殖しているのか。その裏には、ブラック企業を支える弁護士・社労士がいた…。
	独占禁止法：国際標準の競争法へ / 村上政博著 岩波書店, 2017.1 (岩波新書) S-335.57-Mu43d2 事業活動の基本ルールを決める独禁法は、大改正を経て様変わりした。最新の重要判例を紹介し、国際標準の法制を解説。
通貨	「通貨」の正体 / 浜矩子著 集英社, 2019.1 (集英社新書0965A) 337.2-H22t 通貨を通貨たらしめているものは何なのか? 国家の威信なのか、金(ゴールド)なのか、あるいは…。脆弱な通貨の「正体」を見極めないまま、世界各国は莫大な財政赤字を積み上げ、金融政策を行っている。通貨の本質をえぐる必読の書。
財政	幸福の増税論：財政はだれのために / 井手英策著 岩波書店, 2018.11 (岩波新書1747) S-342.1-I19k なぜ日本では、「連帯の仕組み」であるはずの税がこれほどまでに嫌われるのか。すべての人たちの命とくらしが保障される温もりある社会を取り戻すために、あえて「増税」の必要性に切り込み、財政改革、社会改革の構想を大胆に提言する。
	ルポタックスヘイブン：秘密文書が暴く、税逃れのリアル / 朝日新聞ICIJ取材班著 朝日新聞出版, 2018.4 (朝日新書) 345.1-A82r アフリカ、インド洋、香港へと訪れ、巨大企業と富裕層だけが得をする税逃れの仕組み、そのかわりに搾取される人々の存在まで取材。その生々しい現実を報告し、さらにタックスヘイブンがもたらす経済の世界的リスクを分析する。
	日本の納税者 / 三木義一著 岩波書店, 2015.5 (岩波新書) S-345.1-Mi24n 税制に関する国民の無関心と無理解につけ込んだ「お上まかせの税制」が、今日の財政危機と格差社会を生んだともいえる。
租税	富裕層のバレない脱税：「タックスヘイブン」から「脱税支援業者」まで / 佐藤弘幸著 NHK出版, 2017.9 (NHK出版新書526) 345.19-Sa852f タックスヘイブンの存在が暴露されて以降、「大金持ちがまともな税金を払っていない」ことはなかば常識となりつつある。マルサ(国税局査察部)を超える最強部隊と呼ばれる元国税局資料調査課の著者が、富裕層の脱税の手口を白日のもとにさらす。

租 税	<p>国税局査察部24時 / 上田二郎著 講談社, 2017.1 (講談社現代新書) 345.19-U32k            国税局査察部、通称マルサ。闇に潜む資金、経済社会の網の目をすり抜けるカネに目を光らせ、資金警察とも呼ばれている。</p>
	<p>日本の税金 / 三木義一著 岩波書店, 2018.9 (岩波新書1737) S-345.21-Mi24n3            日本の税制は複雑でわかりにくい。政治家と官僚まかせで作られた制度を、市民の目線で見直し、問題点などを解説する。</p>
	<p>消費税は下げられる! : 借金1000兆円の大嘘を暴く / 森永卓郎 [著] KADOKAWA, 2017.3 345.7-Mo57s            (角川新書K-126)            本書で強調したいことはたった一つ、「日本の財政は世界一健全」ということ。財政が健全なのだから、今こそ消費税率を引き下げるべきなのだ。財務省主導の増税路線の誤りを正し、日本経済の進むべき道を説く。</p>
社 会 学	<p>社会学：わたしと世間 / 加藤秀俊著 中央公論新社, 2018.4 (中公新書2484) C-361-Ka86s            集団、コミュニケーション、組織、自我などのキーワードを切り口に、世の中の仕組みをよりよく知る方法を伝授する社会学入門。</p>
	<p>現代社会はどこに向かうか：高原の見晴らしを切り開くこと / 見田宗介著 岩波書店, 2018.6 S-361-Mi56g            (岩波新書1722)            曲がり角に立つ現代社会、人間の精神は、どのような方向に向かうのか。この後の時代を、どのように切り開くことができるのか。</p>
	<p>社会学史 / 大澤真幸著 講談社, 2019.3 (講談社現代新書2500) 361.2-O74s            「社会学はもちろん、その周辺の学問を理解するためには、どうしても、社会学史全体を知っておく必要があります。それなのに、なぜか、社会学史の本がほとんどないのが現状です。だから、この仕事には私は、強い社会的な使命感を持っています」</p>
	<p>日本会議の正体 / 青木理著 平凡社, 2016.7 (平凡社新書) 361.4-A53n            安倍政権とも密接な関係を持ち、憲法改正などを掲げて政治運動を展開する、草の根右派組織の正体とは。</p>
	<p>クー・クラックス・クラン：白人至上主義結社KKKの正体 / 浜本隆三著 平凡社, 2016.10 361.4-H242k            (平凡社新書)            白人至上主義を唱え、アメリカ南北戦争後に誕生した秘密結社クー・クラックス・クラン。その盛衰の背景とメカニズムを考察する。</p>
	<p>日本の分断：切り離される非大卒若者(レッグス)たち / 吉川徹著 光文社, 2018.4 361.4-Ki22n            【光文社新書945】            東京18.5.20 日本社会の底堅さを支える非大卒若者(レッグス)を社会の宝と捉え、配慮と共生を図ることの重要性を訴える。</p>
	<p>毎日同じ服を着るのがおしゃれな時代：今を読み解くキーワード集 / 三浦展著 光文社, 2016.10 361.4-Mi671m            (光文社新書)            今を読み解くキーワードから、時代の逆転を描写。「消費」「世代」「少子高齢化」「家族」「都市」の最先端の動きを解説する。</p>
	<p>友だちは永遠じゃない：社会学でつながりを考える / 森真一著 筑摩書房, 2014.11 361.4-Mo452t            (ちくまプリマー新書)            親子や友人、学校や会社など固定的な関係も「一時的協力理論」の意義を理解すると、違った姿や新しい可能性が見えてくる。</p>
	<p>「やさしさ」過剰社会：人を傷つけてはいけないのか / 榎本博明著 PHP研究所, 2016.11 361.5-E631y            (PHP新書)            上っ面のやさしさが主流になり、厳しいことも言う本物のやさしさが疎まれてしまう時代。現代の「やさしさ」を心理学者が分析。</p>
	<p>わかりあえないことから：コミュニケーション能力とは何か / 平田オリザ著 講談社, 2012.10 361.5-H68w            (講談社現代新書)            2013新書大賞4位 若者に「コミュニケーション能力がない」というのは本当なのか。劇作家がコミュニケーションの本質に迫る。</p>
	<p>友だち幻想：人と人の「つながり」を考える / 菅野仁著 筑摩書房, 2008.3 (ちくまプリマー新書) 361.5-Ka571t            なぜ友だちとの関係で傷つき、悩むのだろう。人と人との距離感覚をみがき、上手に“つながり”を築けるようになるための本。</p>
	<p>悪意の心理学：悪口、嘘、ヘイト・スピーチ / 岡本真一郎著 中央公論新社, 2016.7 (中公新書) C-361.5-O42a            嘘、皮肉、罵倒、偏見。悪意はなぜ生まれ、どう表現されるのか。どうすれば、悪意に立ち向かえるのか。心理学の観点から考察。</p>
	<p>メディア不信：何が問われているのか / 林香里著 岩波書店, 2017.11 【岩波新書1685】 S-361.54-H48m            市民に求められるリテラシーとは。独英米日の報道の国際比較研究を通して民主主義を蝕む「病弊」の実像と課題を追う。</p>
	<p>たったひとつの「真実」なんてない：メディアは何を伝えているのか? / 森達也著 筑摩書房, 2014.11 (ちくまプリマー新書) 361.54-Mo45t            メディアは、事実と嘘の境界線上にある。でも、嘘ばかりというのは間違い。大切なことは正しく見て、聞き、そして考えること。</p>
	<p>流言のメディア史 / 佐藤卓己著 岩波書店, 2019.3 (岩波新書1764) S-361.54-Sa85r            流言蜚語、風評、誤報、陰謀論、情報宣伝…。現代史に登場したメディア流言の「真実」を見極め、影響を再検証するメディア論。マスメディアの責任をただ追及していればよかった安楽な「読み」の時代はすでに終わり、一人ひとりが情報発信の責任を引き受ける「読み書き」の時代となっている。</p>
<p>サブカル勃興史：すべては1970年代に始まった / 中川右介 [著] KADOKAWA, 2018.11 361.6-N321s            (角川新書K-240)            ウルトラ・シリーズ、仮面ライダー、ガンダム…。これらの大半は1970年代に始まった。国民的エンタテインメントの原点を紐解く。</p>	

社会 保 障	AI時代の新・ベーシックインカム論 / 井上智洋著 光文社, 2018.4 【光文社新書940】 364-I57a ベーシックインカム(Basic Income, BI)とは、「政府が、すべての人に必要最低限の生活を保障する収入を無条件に支給する」制度を指す。近年、特にヨーロッパ諸国を中心にBI導入をめぐる動きはかつてないほど盛んになっている。日本での導入の可能性はどうか。財源はどうするのか。BIに関する様々な問題を深く掘り下げて論考する刺激的な一冊。
	お金のために働く必要がなくなったら、何をしますか? / エノ・シュミット [ほか] 著 光文社, 2018.11 364-O44 (光文社新書9756) ベーシックインカムは、社会や人間のあり方に何をもちたらずのか。お金・労働・社会保障・所得・生き方・社会のあり方を問う。
労 働 問 題	ブラック職場：過ちはなぜ繰り返されるのか? / 笹山尚人著 光文社, 2017.11 (光文社新書913) 366.021-Sa79b 非正規雇用の労働者が増え、労働条件の劣悪さに苦しむ事例、裁判に訴えても声が届かない例は数知れない。パワハラを始めとする様々なハラスメントも横行している。なぜ、ブラックな職場はなくなるのか。具体的な解決策を示す。
	「働き方改革」の嘘：誰が得をして、誰が苦しむのか / 久原稔著 集英社, 2018.9 366.11-Ku22h (集英社新書0948A) 2018年6月に国会で関連法が成立した「働き方改革」。この間の経緯と問題点をまとめるとともに、「誰が、何のために『改革』を言い出したのか」を明らかにする。なぜ、労働問題を所管する厚労省ではなく、経営者サイドに立つ経産省主導で進んできたのか。問題の多い「高プロ」にこだわる理由は何か。副業やクラウドワークを推奨し、雇用システムを流動化させようとする狙いとは。
	なぜ働き続けられない?：社会と自分の力学 / 鹿嶋敬著 岩波書店, 2019.1 (岩波新書1756) S-366.35-Ka76n 働く女性は全体の半数近くを占めるのに、本人が望んでも働き続けられないのはなぜなのか。なぜ非正規雇用が多いのか。雇用均等処遇、男女共同参画社会の中での「軋轢」を描きながら、当事者の声とともに今後を問う。
	残業学：明日からどう働くか、どう働いてもらうのか? / 中原淳, パーソル総合研究所著 光文社, 2018.12 (光文社新書980) 366.47-N33z 一体なぜ、日本人は長時間労働をしているのか? 歴史、習慣、システム、働く人の思い——2万人を超える調査データを分析し、あらゆる角度から徹底的に残業の実態を解明。
	ルポニッポン絶望工場 / 出井康博 [著] 講談社, 2016.7 (講談社+α新書) 366.8-I19r 新聞・テレビが決して報じない外国人留学生、実習生の真実。コンビニ弁当工場、新聞配達、宅配便仕分け、農業…。日本人の便利な生活を末端で支える彼らが絶望し、 <b>&lt;謀反&gt;</b> を起こす時、この国の生活基盤は崩壊する。
	ブラックバイト：学生が危ない / 今野晴貴著 岩波書店, 2016.4 (岩波新書) S-366.8-Ko75b 休みのない過密シフトで心身を壊すほど働き、売上ノルマのため「自爆営業」も強要。実態と原因を明らかにし、対策を提示する。
	外国人労働者をどう受け入れるか：「安い労働力」から「戦力」へ / NHK取材班著 NHK出版, 2017.8 (NHK出版新書525) 366.8-N711g 日本で働く外国人の数が、2016年に100万人を超えた。飲食業や建設業をはじめ、低賃金・重労働の業種は、外国人の労働力なくしては、もはや日本の産業は成り立たない。外国人たちの悲惨な奴隷労働の実態や、共存のあり方について考える。
	コンビニ外国人 / 芹澤健介著 新潮社, 2018.5 (新潮新書767) 366.8-Se83c 全国の手数コンビニで働く外国人店員はすでに四万人超。実にスタッフ二十人に一人の割合だ。世界第五位の「外国人労働者流入国」に日本がなったカラクリとは。日本語学校の危険な闇とは。切ない現実と向き合った入魂のルポルタージュ。
	自己実現という罠：悪用される「内発的動機づけ」 / 榎本博明著 平凡社, 2018.5 366.94-E63j (平凡社新書877) 内発的動機づけという心理学の概念を悪用して、従業員を酷使する事例が後を絶たない。悪徳経営者からどう身を守るべきか?
	「おもてなし」という残酷社会：過剰・感情労働とどう向き合うか / 榎本博明著 平凡社, 2017.3 366.94-E63o 【平凡社新書839】 行き過ぎた「おもてなし」(接客)の精神が現代に働く私たちを追い詰めている。その社会的背景や実例を示し、対処法を考える。
女 性 問 題	非正規・単身・アラフォー女性：「失われた世代」の絶望と希望 / 雨宮処凛著 光文社, 2018.5 367.21-A42h (光文社新書947) 過酷な受験競争を強いられたこの世代は、社会に出る頃にはバブルが崩壊し、就職氷河期にぶつかる。そのため、彼ら・彼女らの多くがフリーターや派遣という非正規人生となった。アラフォー女性の約半数は非正規。お金の問題にとどまらず、結婚、出産、病気、老い、介護、孤独といった問題にも直面している。現代アラフォー女性たちの証言から何が見えてくるのか。
	ルポ貧困女子 / 飯島裕子著 岩波書店, 2016.9 (岩波新書) S-367.21-I27r 若年層が抱える困難、日本の男女格差。一億総活躍社会の掛け声の陰で、困難を抱えて生き抜こうともがく女性たちを描く。
	女も男も生きやすい国、スウェーデン / 三瓶恵子著 岩波書店, 2017.1 【岩波ジュニア新書846】 367.2388-Sa66o 男女平等政策はここ30年で大きく進み、更新中だ。保育園や学校、企業や社会でどのように取り組んでいるのかを紹介。
	誰も教えてくれない大人の性の作法 / 坂爪真吾, 藤見里紗著 光文社, 2017.9 【光文社新書901】 367.6-Sa38d タブー視され、孤立する性の問題。私たちが今後どう在りたいかを検証し、議論する。大人の性教育を考える実践的な一冊。
性 教 育	ルポひきこもり未満：ルールから外れた人たち / 池上正樹著 集英社, 2018.9 (集英社新書0947B) 367.9-I33r 派遣業務の雇い止め、両親の多重債務、高学歴が仇となった就職活動、親の支配欲…。彼らに共通するのは、社会から隔絶されて行き場を失ってしまった現状である。他人事ではない「社会的孤立者」たちの状況を、寄り添いながら詳細にレポート。
	フランス人の性：なぜ「#MeToo」への反対が起きたのか / プラド夏樹著 光文社, 2018.8 367.9-P97f (光文社新書961) 出生率2.01人の子どもを産み、育てやすい国。たとえ高齢者であってもセックスレスなどあり得ない国。子どもに8歳から性教育を施す国。大統領も堂々と不倫をする国。そんな性に大らかな国・フランスの現在を、在仏ジャーナリストが多角的に描く。

貧困	<b>貧困世代：社会の監獄に閉じ込められた若者たち / 藤田孝典著</b> 講談社，2016.3 (講談社現代新書2358) 368.2-F67h 学生はブラックバイトでこき使われて学ぶ時間がない。社会人は非正規雇用や奨学金返還に苦しむ。社会構造の問題を描く。
	<b>ヤングケアラー：介護を担う子ども・若者の現実 / 澁谷智子著</b> 中央公論新社，2018.5 C-369.26-Sh23y 【中公新書2488】 北海道18.7.19 ヤングケアラーとは、家族の介護を行う一八歳未満の子どもを指す。超高齢社会を迎え、介護を担う若い層も増えているが、その影響は彼らの学業や日常生活にも及んでいる。人口減少時代の家族のあり方とケアの今後を問う一冊。
	<b>目の見えない人は世界をどう見ているのか / 伊藤亜紗著</b> 光文社，2015.4 (光文社新書751) 369.27-I89m 美学と現代アートを専門とする著者が、視覚障害者の空間認識、感覚の使い方、体の使い方、コミュニケーションの仕方、生きるための戦略としてのユーモアなどを分析。目の見えない人の「見方」に迫りながら、「見る」ことそのものを問い直す。
	<b>地図から消される街：3.11後の「言ってはいけない真実」 / 青木美希著</b> 講談社，2018.3 369.31-A53c 【講談社現代新書2472】 現実を無視した「帰還」事業、弱き者への支援の打ち切り…。見せかけの「復興」、自治体の町残し、人が消えていく実情とは。
	<b>難民問題：イスラム圏の動揺、EUの苦悩、日本の課題 / 墓田桂著</b> 中央公論新社，2016.9 C-369.37-H17n (中公新書2394) 世界の秩序を大きく変えようとさえしている難民問題。難民が抱える苦難と、受け入れる側の葛藤から、日本は何を学ぶか。
	<b>ルボ保育崩壊 / 小林美希著</b> 岩波書店，2015.4 (岩波新書) S-369.42-Ko12r 空前の保育士不測の中、知られざる厳しい現状を余すところなく描き出し、「保育の質」の低下に警笛を鳴らす。
社会福祉	<b>ルボ保育格差 / 小林美希著</b> 岩波書店，2018.4 (岩波新書1712) S-369.42-Ko12rb 一向に解消されない待機児童問題。果たして中でのどのような保育が行われているのか。なぜ園によって大きな違いがあるのか。保育所は選べないなか、運次第で受けられる保育の質に格差があっているのか。前著『ルボ保育崩壊』に続くレポート。
	<b>みんなの道徳解体新書 / パオロ・マツァリーノ著</b> 筑摩書房，2016.11 【ちくまプリマー新書266】 371.6-Ma99m 朝日17.5.14 義務教育化されるこの機会に道徳って何なのか、誰のために必要なのか考える。学校では教えてくれない、道徳。
	<b>日本の公教育：学力・コスト・民主主義 / 中澤渉著</b> 中央公論新社，2018.3 (中公新書2477) C-372.1-N46n 公費で一部もしくは全体が運営される学校教育=公教育とはそもそも何のためにあるのか。その役割について、民主主義社会の成立や経済的意義などの観点から解説していく。
	<b>「奨学金」地獄 / 岩重佳治著</b> 小学館，2017.2 (小学館新書293) 373.4-I96s 貧困や格差の拡大と高騰した学費の影響で奨学金を借りる人は増え続け、大学生の5割以上が利用者だ。卒業時点で数百万円の借金を背負う。日本育英会から引き継がれた日本学生支援機構の奨学金制度は金融事業になり、返済困難な人にも苛酷な取り立てが行われる。生活苦と返済苦にあえぐ人々の実態、制度の問題点と救済策を明らかにする。
	<b>ブラック奨学金 / 今野晴貴著</b> 文藝春秋，2017.6 【文春新書1112】 373.4-Ko75b 東京17.8.6 容赦のない取り立てと厳しいペナルティで返済に行き詰まり、親戚にまで厳しい請求が行く例が相次いでいる。
	<b>奨学金が日本を滅ぼす / 大内裕和著</b> 朝日新聞出版，2017.2 (朝日新書604) 373.4-O91s 大学生の半数以上が奨学金を借りている。多く人は600万円もの借金を抱え、卒業後に返済で困窮する。授業料が高く親の収入が減ったため、学生は奨学金とバイトが頼みの綱。「ブラックバイト」命名の著者が奨学金問題の本質と解決策に迫る。
教育史	<b>給食の歴史 / 藤原辰史著</b> 岩波書店，2018.11 (岩波新書1748) S-374.94-F56k 子どもの味覚に対する権力行使の側面と、未来へ命をつなぎ新しい教育を模索する側面。給食は、明暗二面が交錯する「舞台」である。貧困、災害、運動、教育、世界という五つの視角から知られざる歴史に迫り、今後の可能性を探る。
	<b>部活があぶない / 島沢優子著</b> 講談社，2017.6 (講談社現代新書2432) 375.18-Sh45b 子どもたちの自主性や人間力を育てる場として、学校教育において重要性を増す部活動。ところが、児童虐待と化している「ブラック部活」が社会問題となっている。児童虐待化する部活を徹底レポート。子ども達が成長できる部活指導のあり方も提示。
	<b>民主主義：「一九四八-五三」中学・高校社会科教科書エッセンス復刻版 / 文部省著；西田亮介編</b> 幻冬舎，2016.1 (幻冬舎新書409) 375.9-Mo31m 毎日16.2.14 戦後、中学・高校社会科教科書として使われた『民主主義』は、民主主義や選挙権の意義など、格調高く解説。
大学	<b>先生は教えてくれない大学のトリセツ / 田中研之輔著</b> 筑摩書房，2017.4 (ちくまプリマー新書277) 377.9-Ta841s 大学4年間どうやって過ごすか。漠然と講義を受けるだけではもったいない。卒業後の目標のもと大学を有効利用する方法とは。



飲食史	お菓子でたどるフランス史 / 池上俊一著 岩波書店, 2013.11 (岩波ジュニア新書757) 383.8-I33o お菓子は教会や修道院で生まれ、王や貴婦人たち、そしてブルジョワや文豪、パティシエたちによって、戦略的に磨かれてきた。
	パスタでたどるイタリア史 / 池上俊一著 岩波書店, 2011.11 (岩波ジュニア新書699) 383.8-I33p 古代ローマのパスタの原型、アラブ人が伝えた乾燥パスタ、大航海時代がもたらしたトマト。国民食の成立からイタリアを知る。
	恋愛制度、束縛の2500年史：古代ギリシャ・ローマから現代日本まで / 鈴木隆美著 光文社, 2018.12 (光文社新書982) 384.7-Su96r 西欧の恋愛制度が確立していく歴史を追うとともに、それが日本に輸入され、いかに変質したのかを、プルースト研究者が綴る。
	愛と狂瀾のメリークリスマス：なぜ異教徒の祭典が日本化したのか / 堀井憲一郎著 講談社, 2017.10 【講談社現代新書2401】 386.81-H88a なぜ日本人は、キリスト教信者でもないのに、クリスマスを特別行事と見なして、毎年毎年、あんなに大騒ぎするのだろうか。
民族学	「その日暮らし」の人類学：もう一つの資本主義経済 / 小川さやか著 光文社, 2016.7 (光文社新書) 389-O241s 世界には成果主義、資本主義とは異なる価値観で人びとが豊かに生きている社会や経済がたくさんあることに気づく。「貧しさ」がないアマゾンの先住民、気軽に仕事を転々とするアフリカ都市民、海賊行為が切り開く新しい経済・社会…。わたしたちの対極にあるそうした「その日暮らし、Living for Today」を人類学的に追求し、働き方、人とのつながり、時間的価値観をふくめた生き方を問い直す。
	普天間・辺野古歪められた二〇年 / 宮城大蔵, 渡辺豪著 集英社, 2016.4 (集英社新書) 395-Mi73f 20年前「沖縄の負担軽減」として日米合意した普天間返還が、なぜ辺野古の海を埋め立てる「新基地建設強行」になったのか。
自然科学	科学者は戦争で何をしたか / 益川敏英著 集英社, 2015.8 (集英社新書) 404-Ma671k 本来、科学は「中性」であり、使う人間によって平和利用も軍事利用も可能となる。世界から戦争をなくすための方策を提言。
	科学者と戦争 / 池内了著 岩波書店, 2016.6 (岩波新書) S-407-I35k 軍事研究との訣別を誓ったはずの日本で、軍学共同が急速に進んでいる。反省を忘れ、科学者はいったい何を考えているのか。
	科学者と軍事研究 / 池内了著 岩波書店, 2017.12 (岩波新書1694) S-407-I35k-2 防衛省と大学との共同研究に道を開いた安全保障技術研究推進制度。発足後わずか三年で100億円規模にまで増えた予算を背景に、大学での軍事研究がいよいよ本格化しつつある。潤沢な研究費と引き替えに、科学者たちは何を失うことになるのか。
	絶滅の人類史：なぜ「私たち」が生き延びたのか / 更科功著 NHK出版, 2018.1 (NHK出版新書541) 467.5-Sa69z 700万年に及ぶ人類史は、ホモ・サピエンス以外の人類にとって絶滅の歴史に他ならない。人類史研究の最前線を描く。
進化論	ユーラシア動物紀行 / 増田隆一著 岩波書店, 2019.1 (岩波新書1757) S-482.38-Ma66e 北欧フィンランドから始まる旅は水の都セントペテルブルクの動物学博物館を経て大自然の中へ。ヴォルガ川の動物たち、ウラル山脈のヒグマ、シベリアのマンモス、バイカル湖の動物、極東のシマフクロウを追う。動物地理学研究の世界へご紹介。
	ウニはすごいバツタもすごい：デザイン生物学 / 本川達雄著 中央公論新社, 2017.2 (中公新書2419) C-483-Mo85u 朝日17.6.4 刺胞動物、節足動物、軟体動物、棘皮動物、脊索動物の五つのグループを取り上げ、多彩な世界を紹介する。
動物学	バツタを倒しにアフリカへ / 前野ウルド浩太郎著 光文社, 2017.5 【光文社新書883】 486.45-Ma27b 新書大賞2018大賞 バツタ被害を食い止めるため、バツタ博士は単身、モーリタニアへと旅立った。修羅への道とも知らずに…。
	「うつ」は食べ物原因だった! : 4000人の「うつ」が改善した栄養医学の新事実 / 溝口徹著 青春出版社, 2018.12 (青春新書intelligence) 491.371-Mi93u2 「うつ」改善のヒントは食べ物にある。腸の不調が「脳の栄養不足」を引き起こしていた。パン、乳製品、果物、スイーツ…。「いつも食べているもの」が自律神経を乱す仕組みとは。
昆虫	「いのち」とがん：患者となって考えたこと / 坂井律子著 岩波書店, 2019.2 (岩波新書1759) S-491.615-Sa29i “絶体絶命”の状況を人はいかに生き得るのか。突然の膵臓がん宣告、生きるための治療選択、届かぬ患者の声、死の恐怖。患者となって初めて実感した(いのち)の問題を、赤裸々に真摯に哲学した「がん時代」、未来への提言。
医学	うつ病：回復に向けた対話 / パスカール=アンリ・ケレール著；阿部又一郎, 渡邊拓也訳 白水社, 2017.6 (文庫クセジュ1013) Q-493.76-Ke32u 今日ではコモンディジーズ(一般的な病気)となり、現代人がかかえるこの苦悩に向けた、その先の治癒や回復を目指すための手がかりとは。うつ病に悩まされているすべての人へ、フランスの心理臨床家からの公開書簡。
	うつ病をなおす / 野村総一郎著 講談社, 2017.2 (講談社現代新書) 493.76-N95u2 「現代うつ病」の治療法や、「双極性障害との治療法の違い」、患者数が増加している「適応障害」についても述べる新版。
栄養学	不眠とうつ病 / 清水徹男著 岩波書店, 2015.8 (岩波新書) S-493.76-Sh49f うつ病の兆候と症状を、不眠との関係から明らかにする。予防法としての睡眠改善と快眠法、薬に頼らない治療法まで解説する。
	体を壊す10大食品添加物 / 渡辺雄二著 幻冬舎, 2013.3 (幻冬舎新書) 498.55-W46k 明太子、コンビニ弁当、カロリーオフ飲料、菓子パン、ノンアルコールビール、栄養ドリンクには、発がん性物質が使われている。

技術史	近代日本一五〇年：科学技術総力戦体制の破綻 / 山本義隆著 岩波書店, 2018.1 【岩波新書1695】 S-502.1-Y31k 日本の近代化は、「殖産興業・富国強兵」「高度国防国家建設」「経済成長・国際競争」と、総力戦体制として150年間続いた。
	リサイクルと世界経済：貿易と環境保護は両立できるか / 小島道一著 中央公論新社, 2018.5 【中公新書2489】 C-518.523-Ko39r 日経18.6.9朝日7.7 国際リサイクルが急速に拡大するなか、各国の再生資源の獲得競争や、相手国に環境汚染を生じさせる有害廃棄物の輸出など、さまざまな問題も起こっている。知られざる現状と問題点を明らかにする。
ごみ	人口減少時代の都市：成熟型のまちづくりへ / 諸富徹著 中央公論新社, 2018.2 (中公新書2473) C-518.8-Mo77j 上下水道や交通ネットワークといった公共インフラの維持・更新、空き家問題への対策などには膨大な費用がかかるが、自治体の財政状況は厳しい。地域内の所得と雇用、独自の財源をもたらす都市経営のあり方を提言する。
	原発プロパガンダ / 中間龍著 岩波書店, 2016.4 (岩波新書) S-539.091-H85g 電気料金から生じる巨大なマネーを原資に、広告代理店を駆使して実現した「安全神話」と「豊かな生活」の刷り込みを暴く。
都市計画	「脱原発」への攻防：追いつめられる原子力村 / 小森敦司著 平凡社, 2018.2 (平凡社新書867) 539.091-Ko67d 電力自由化、東芝経営危機、原発事故賠償裁判、東電幹部強制起訴…原発事故から7年—「ムラ」は、ついに壊れはじめた。
	原子力規制委員会：独立・中立という幻想 / 新藤宗幸著 岩波書店, 2017.12 【岩波新書1690】 S-539.091-Sh62g 政権や経済界からの圧力を前に、独立性と中立性を維持できているのか。その組織構造と活動内容を批判的に検証する。
原子力政策	除染と国家：21世紀最悪の公共事業 / 日野行介著 集英社, 2018.11 (集英社新書0957A) 539.69-H61j 福島第一原発事故に伴う放射能汚染対策の実態を知ることは、国家の信用と民主主義が破壊された現実を直視することである。
	原発労働者 / 寺尾沙穂著 講談社, 2015.6 (講談社現代新書) 543.49-Te58g ゼロから原発を考え直すために、音楽家が全国の原発労働者を訪ね歩き、小さな声を聴きとった貴重な証言集。
食品	武器輸出と日本企業 / 望月衣塑子[著] KADOKAWA, 2016.7 (角川新書) 559.09-Mo12b 武器輸出三原則が事実上の撤廃となった。防衛省は防衛装備庁を発足させ、資金援助や法改正の検討など、前のめりに突き進む。三菱重工や川崎重工など大手に加え、傘下の企業、研究者などに徹底取材。解禁後の混乱が明かされる。
	チョコレートの世界史：近代ヨーロッパが磨き上げた褐色の宝石 / 武田尚子著 中央公論新社, 2010.12 (中公新書2088) C-588.34-Ta59c カカオは原産地の中米では飲み物であると同時に薬品であり、貨幣にもなった。ヨーロッパに到来したときも、この貴重な実の食用について激論が交わされたが、一九世紀にはココアパウダーや固形チョコレートが発明・改良され、爆発的に普及する。
産業	ねじ曲げられた「イタリア料理」 / ファブリツィオ・グラッセリ著 光文社, 2017.9 (光文社新書903) 596.13-G77n トマトソースは、イタリアの「伝統料理」ではない。ピッツァは、アメリカからやってきた。「パスタ」は「麺類」にあらず。エクストラ・ヴァージン・オリーブオイルは偽物ばかり…。イタリア料理の常識をくつがえす、痛快料理エッセイ。
	地元経済を創りなおす：分析・診断・対策 / 枝廣淳子著 岩波書店, 2018.2 (岩波新書1704) S-601.1-E21j 人口減少、駅前のシャッター通り、あきらめ…。地元経済の悪循環を断ち切る方策はないのか。現状をまずは可視化して、お金や雇用を外部に依存する割合を減らすための考え方やツールを紹介する。好循環を生んだ事例も盛り沢山。
農業	トラクターの世界史：人類の歴史を変えた「鉄の馬」たち / 藤原辰史著 中央公論新社, 2017.9 (中公新書2451) C-614.89-F56t 1892年にアメリカで発明されたトラクターは、直接土を耕す苦役から人類を解放し、穀物の大量生産を可能にした。だが、化学肥料の使用、土地の圧縮、多額のローンなど新たな問題を生み出す。一つの農業用機械が、人類に何をもたらしたのか描く。
	珈琲(コーヒー)の世界史 / 且部幸博著 講談社, 2017.10 【講談社現代新書2445】 619.89-Ta85c 先史時代から現在に至るまで、コーヒーが辿った歴史を、起源に関する最新仮説なども交え、わかりやすく解説した文明史。
珈琲	上野公園へ行こう：歴史&アート探検 / 浦井正明著 岩波書店, 2015.7 (岩波ジュニア新書) 629.3-U81u 日本ではじめての公園には、歴史も建物もアートも動物も植物もふんだんにある。ディープな上野公園を探検してみよう。
	ミルクと日本人：近代社会の「元気の源」 / 武田尚子著 中央公論新社, 2017.6 (中公新書2438) C-648.1-Ta59m 明治初期、牛乳を飲む英国人を見た日本人は胸が悪くなったという。だが築地に牧場が開設され、急速に普及する。関東大震災や敗戦直後には、児童の栄養を案ずる人々によって学校給食が推進される。飲みものが語る日本の歴史。
畜産	ラーメン超進化論：「ミシュラン一つ星」への道 / 田中一明著 光文社, 2017.12 (光文社新書920) 673.9-Ta845r 日本に3万5000店あると言われるラーメン店でも、特に素晴らしい一杯を作る店が存在する。そういった店主たちは尋常でない努力で、他にはない、オリジナルの味をもがき苦しみながら作り上げる。日本最高峰の作り手たちに、「ラーメン官僚」が迫った。

観光事業	観光立国の正体 / 藻谷浩介, 山田桂一郎著 新潮社, 2016.11 (新潮新書692) 688.21-Mo82k 爆買い、インバウンド、東京オリンピック…。訪日外国人の急増とデフレの慢性化で、国策としての「観光立国」への期待が急速に高まってきた。しかし、日本の観光・リゾート地の現場には、いまだに「団体・格安・一泊二日」の旧来型モデルに安住している「地域のボスゾンビ」たちが跋扈している。日本を真の「観光立国」たらしめるには何が必要なのか。
	巡礼ビジネス：ポップカルチャーが観光資産になる時代 / 岡本健 [著] KADOKAWA, 2018.12 688.21-O42j (角川新書K-243) 「いつもの場所」がアニメ化で観光資産に。市場拡大するアニメ産業から派生した「聖地巡礼」という消費行動。どうしたら「大切な場所」を作ることができるのか? 「過度な商業化による弊害」事例も含め、文化と産業とが融合したケースを数多く紹介する。
	外国人が見た日本：「誤解」と「再発見」の観光150年史 / 内田宗治著 中央公論新社, 2018.10 (中公新書2511) C-688.21-U14g 外国人は何を見たいのか。日本人は何を見せたいのか。国策としてのガイドブック作成、ホテル建設など、観光客誘致に邁進する。しかしそこには常に「見たいもの」と「見せたいもの」のギャップが存在していた。観光客誘致でたどる近代史。
情報化社会	デジタル・ポピュリズム：操作される世論と民主主義 / 福田直子著 集英社, 2018.5 【集英社新書】 695-F742d 嘘を混ぜたプロパガンダや個人の不安に直接訴える「マイクロ宣伝」。これら巧妙なサイバー戦略は、世論形成に使われている。
	ネットリンチで人生を壊された人々：ルポ / ジョン・ロンソン著；夏目大訳 光文社, 2017.2 695-R66n (光文社新書869) ツイッターやフェイスブックなどのSNSを舞台に、現代によみがえった「公開羞恥刑」=ネットリンチの実態と深層に迫る。
	情報戦争を生き抜く：武器としてのメディアリテラシー / 津田大介著 朝日新聞出版, 2018.11 695-Ts34jb (朝日新書696) ソーシャルメディアでの情報操作は、世界で最も深刻な問題の一つであり、情報を読み解く力(メディアリテラシー)が必要不可欠な時代はいまだかつてない。ソーシャルネットワークの際限ない肥大化を斬る、メディア・アクティビストの最新情報社会学論。
美術史	キャスターという仕事 / 国谷裕子著 岩波書店, 2017.1 (岩波新書) S-699.3-Ku46c 日本のジャーナリズムに新しい風を吹き込んだ(クローズアップ現代)。キャスターとして挑戦し続けた23年にわたる日々を語る。
	ヤマザキマリの偏愛ルネサンス美術論 / ヤマザキマリ著 集英社, 2015.12 (集英社新書) 702.05-Y48y あの大巨匠も「好色坊主」「筋肉フェチ」「人嫌い」と抱腹絶倒のキャラクターに大変身。楽しく解説する、ヤマザキ流芸術家列伝。
	ジャポニスム：流行としての「日本」 / 宮崎克己著 講談社, 2018.12 (講談社現代新書2506) 702.06-Mi88j 西洋の美意識を変えた19世紀の日本ブーム。マネ、モネ、ゴッホ、ゴーギャン、ドガ、セザンヌ…。印象派の巨匠たちは、こぞって日本美術を研究し、自身の絵画に取り入れた。
絵画	ダ・ヴィンチの「最後の晩餐」はなぜ傑作か?：聖書の物語と美術 / 高階秀爾著 小学館, 2014.8 702.099-Ta54d (小学館101ビジュアル新書) レオナルド・ダ・ヴィンチやラファエロ、ミケランジェロ、ボッティチェリ、フラ・アンジェリコ、ティツィアーノ、レンブラント、ルーベンス、モロー、マネなど数々の巨匠たちが、聖書の物語をどのように描いてきたのか読み解き、図版とともに、わかりやすく解説。
	ルネサンス三巨匠の物語：万能(レオナルド)・巨人(ミケランジェロ)・天才(ラファエッロ)の軌跡 / 池上英洋著 光文社, 2013.9 (光文社新書) 702.37-I33rb 1504年フィレンツェで、1516年ローマで、彼らはどう出会い、何を目指したのか。三巨匠の邂逅から、その後の運命までを描く。
	ミケランジェロ / 木下長宏著 中央公論新社, 2013.9 (中公新書) C-702.37-Mi13Yk 彫刻や絵画のみならず、建築、素描、詩篇にいたる超人的な芸術活動の核心には何があるのか。巨匠の人物像を刷新する。
絵画	巨大アートビジネスの裏側：誰がムンクの「叫び」を96億円で落札したのか / 石坂泰章著 文藝春秋 706.7-I84k 秋, 2016.5 (文春新書1079) 大型コレクションを巡る熾烈な競争。「資産の20%はアート」とも言われ、国難やインフレにも強く、富裕層を虜にしている。価格が高騰する作品は何が違うのか。虚々実々の舞台裏を「アートは人間そのもの」と語るサザビーズジャパン前社長が明かす。
	北斎漫画入門 / 浦上満著 文藝春秋, 2017.10 (文春新書1145) 721.8-Ka88hYu ジャポニスムの画家たちを魅了した葛飾北斎の代表作『北斎漫画』。四八年間にわたり集めに集め、初編から十五編までを約一五〇〇冊蒐集。その世界一のコレクターが、「初摺」にこそ北斎の真髄があるとこだわり抜いて綴った画期的入門書。
	美貌のひと：歴史に名を刻んだ顔 / 中野京子著 PHP研究所, 2018.6 (PHP新書1145) 723-N39b 絵画のなかの美しいひとたちは、なぜ描かれることになったのか。本書では、40の作品を中心に美貌の奥に潜む光と影を探る。
絵画	西洋絵画の歴史 小学館, 2013.10-2016.12 (小学館101ビジュアル新書) 723-Se19d-1,2,3 1: ルネサンスの驚愕 / 遠山公一著 2: バロック・ロココの革新 / 高橋裕子著 3: 近代から現代へと続く問いかけ / 三浦篤著
	クリムト：官能の世界へ / 平松洋 [著] KADOKAWA, 2018.1 【角川新書】 723.346-KL6Yh 絢爛豪華な作風で世紀末ウィーンを代表する画家となったクリムト(1862-1918)。主要作品をオールカラーでまとめた決定版。
	ゴッホ「自画像」紀行：カラー版 / 木下長宏著 中央公論新社, 2014.11 (中公新書) C-723.359-G57Yk ゴッホは短い歳月に、40点を超える自画像を遺した。なぜこれほど多くの自画像を描き、そしてそこに何をみいだしたのか。
ゴッホのひまわり全点謎解きの旅 / 朽木ゆり子著 集英社, 2014.3 (集英社新書) 723.359-G57Ykn 東京にある「ひまわり」は贋作? ゴッホが描いた11枚の「ひまわり」にまつわる多くの謎を、科学と歴史の観点から解く。	

絵画	ベラスケス：宮廷のなかの革命者 / 大高保二郎著 岩波書店，2018.5（岩波新書1721） S-723.36-V56Yo 大作《ラス・メニーナス》に残された自画像を導きの糸に、彼が起こした「革命」の真相に迫る、決定版評伝。
	ダ・ヴィンチ絵画の謎：カラー版 / 斎藤泰弘著 中央公論新社，2017.3（中公新書2425） C-723.37-L55Ys 鏡文字で書かれたダ・ヴィンチの手稿を研究し、彼の抱く世界観を知悉する著者が、「モナリザ」や「受胎告知」等、現存する主要な絵に秘められた謎について、ダ・ヴィンチ自身のものの見方、考え方に立って、俗説を退け、解説を試みる。
音楽	バッハ：「音楽の父」の素顔と生涯 / 加藤浩子著 平凡社，2018.6（平凡社新書878） 762.34-B13Yki 「音楽の父」の素顔は、敬虔なルター派教徒にして普通の家庭人だった。彼が暮らしたドイツの街から生涯と作品の秘密を辿る。
	冷戦とクラシック：音楽家たちの知られざる闘い / 中川右介著 NHK出版，2017.7 762.8-N32r (NHK出版新書521) 「クラシック後進国」のアメリカから世界を魅了したバーンスタイン、ソ連にあつて当局にも屈しないムラヴィンスキー、そして「壁」のあるベルリンに君臨した帝王カラヤン…。冷戦とともに歩んだ音楽家たちの姿から、戦後クラシック界の興亡を描き出す。
	戦争交響楽：音楽家たちの第二次世界大戦 / 中川右介著 朝日新聞出版，2016.4（朝日新書） 762.8-N32s ヒトラー政権誕生から終戦までに、著名音楽家たちはどう生きたのか。約50人の音楽家たちが直面した苦難と歓喜を描く。
	ベートルズは音楽を超える / 武藤浩史著 平凡社，2013.7（平凡社新書） 764.7-B31Ym 階級横断的な概念「ミドルブラウ」をキーワードに、彼らの言葉・歌詞を丹念にたどり、音楽を超えた歴史的意義を論じる文化史。
	ベートルズ都市論：リヴァプール、ハンブルグ、ロンドン、東京 / 福屋利信著 幻冬舎，2010.9 764.7-B31Ytb (幻冬舎新書) 奴隷貿易の港町リヴァプールで生まれたベートルズ。惨めな修業時代をハンブルグで過ごし、ロンドンへの反抗心を活力にした。
	『サウンド・オブ・ミュージック』の秘密 / 瀬川裕司著 平凡社，2014.12（平凡社新書） 778.253-Tr1sYs 1965年の公開以来、世代を超えて愛されるミュージカル映画の傑作。観る者を惹きつける永遠の名作の魔法を読み解く。
映画	ジブリの仲間たち / 鈴木敏夫著 新潮社，2016.6（新潮新書） 778.77-Su96gb ジブリは、なぜ常に予想を超えるヒットを生みだし続けることができたのか。秘話満載で綴る、三〇年間の格闘の記録。
	スポーツ国家アメリカ：民主主義と巨大ビジネスのはざままで / 鈴木透著 中央公論新社，2018.3 C-780.253-Su96s 【中公新書2479】 読売18.4.15日経4.28 自由と平等の理念を持つ、移民の国。人種や性、地域社会の問題にアスリートはどう向き合ってきたか。
スポーツ	ブラックボランティア / 本間龍〔著〕 KADOKAWA，2018.7（角川新書） 780.69-H85b 東京オリンピックの運営を、組織委員会は11万人もの無償ボランティアでまかなおうとしている。応募条件は、10日以上できる人で、事前研修の参加も必須、宿泊費などの経費も自己負担だ。「一生に一度の舞台」など、美名に隠された驚きの構造とは。

言語学	翻訳教室：はじめの一步 / 鴻巣友季子著 筑摩書房，2012.7 (ちくまプリマー新書) 801.7-Ko78hb 翻訳は、ことばの置き換えではない。他者のことばを生き、当事者となってそれを自分のことばで実践(または再現)することだ。
	翻訳ってなんだろう? : あの名作を訳してみる / 鴻巣友季子著 筑摩書房，2018.6 801.7-Ko78hc (ちくまプリマー新書301) 翻訳とは、なにをやるものなのだろうか?訳してみて初めてわかる、翻訳の醍醐味と名作の魅力。翻訳家と生徒たちが、対話しながら翻訳を実践するなかで、誰もが知っているはずの名作の世界が、まったく違って見えてくる。
	同時通訳はやめられない / 袖川裕美著 平凡社，2016.8 (平凡社新書) 801.7-So17d 機械のように右から左へと言葉を変換していると思われがちな同時通訳者。知られざる世界、格闘する日々をユーモラスに描く。
	議論のレッスン / 福澤一吉著 NHK出版，2018.5 (NHK出版新書552) 809.6-F85g2 議論にも、スポーツと同様にルールがある。本書を読めば、国会中継、テレビ討論、ニュース番組を見る目が一変。友人との会話も、会社の会議も、自由自在にコントロールできる。噛み合わない不毛な議論にオサラバを。
	日本語を翻訳するということ：失われるもの、残るもの / 牧野成一著 中央公論新社，2018.6 C-810.4-Ma35n (中公新書2493) 「ちらちら」「どんどん」などの擬音・擬態語、「雨ニモ負ケズ」の漢字カタカナ交じりの表記、「顔が能面のようだ」といった比喻など、翻訳困難な日本語表現を紹介。
	中高生からの論文入門 / 小笠原喜康, 片岡則夫著 講談社，2019.1 (講談社現代新書2511) 816.5-O22c 探究力・構築力・表現力を磨くには。論文術・図書館学習の第一人者がわかりやすく解説。卒業論文にも最適の一冊。
文章	大学生のためのレポート・論文術 / 小笠原喜康著 講談社，2018.10 (講談社現代新書2498) 816.5-O22d3 情報検索法や、わかりやすい文章のルールなどは、さまざまな場面で応用可能。最新のネット環境などに対応した最新版。
	文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング / 福澤一吉著 NHK出版，2012.4 817.5-F85b (NHK出版新書) クリティカル・リーディングとは、文章のポイントを的確に見抜き、「批判する力」を育むための全く新しい文章読解法。評論から新聞記事までを素材に、思考がどう論理的に表現されているかを解説、論証の基本構造を明らかにする。
	本物の英語力 / 鳥飼玖美子著 講談社，2016.2 (講談社現代新書) 830.4-To67h とにかくたくさん読む。話すための基本、難関の試験克服法など、日本人が英語の壁を乗り越えるための新常識10を伝授。
英語	国際共通語としての英語 / 鳥飼玖美子著 講談社，2011.4 (講談社現代新書) 830.4-To67k 「英語という共通語」でコミュニケーションをとることが目的。ネイティブ並みに話せなくてもいい。自分らしい英語の発信をしよう。
	英語は多読が一番! / クリストファー・ベルトン著 ; 渡辺順子訳 筑摩書房，2008.12 830.7-B33e (ちくまプリマー新書) 英語を楽しく学ぶには、物語の本をたくさん読むのが一番。単語の意味を推測する方法、レベル別本の選び方などを紹介。
	英単語の世界：多義語と意味変化から見る / 寺澤盾著 中央公論新社，2016.11 (中公新書) C-834-Te62e 英単語は、時代の影響を受け、新しい意味を獲得し、文化・技術に対応していく。英単語の多様な意味をつなぐものとは何か。
	話すための英語力 / 鳥飼玖美子著 講談社，2017.2 【講談社現代新書】 837.8-To67h 英語コンプレックスを打破するための最良の「コミュニケーション・ストラテジー」を同時通訳者としての経験豊富な著者が教授。

文学	小説は君のためにある：よくわかる文学案内 / 藤谷治著 筑摩書房, 2018.9 (ちくまプリマー新書309) 901.3-F67s 小説って何だろう。小説は、役に立つ。君の人生を共に考える友だちになる。ほんとうに？なぜそんなことになるのか。小説だけがもつその特性を解き明かしながら、あたたかく懐深く誘う読書のすすめ。
	もしも、詩があったら / アーサー・ピナード著 光文社, 2015.5 【光文社新書756】 902.81-B44m 「もしも」を使った選りすぐりの名詩を味わいながら、古今東西の詩人たちに学ぶ。言葉と詩の魅力を存分に伝えるエッセイ。
	日本の同時代小説 / 斎藤美奈子著 岩波書店, 2018.11 (岩波新書1746) S-910.26-Sa25n 創作の足元にある社会が激変を重ねたこの50年。日本の作家は何を書き、読者は何を読んできたか。みんなの同時代文学史。
	原民喜：死と愛と孤独の肖像 / 梯久美子著 岩波書店, 2018.7 (岩波新書1727) S-910.268-H31k 新書大賞2019第5位『夏の花』で知られる作家・詩人、原民喜(1905—51)。死の想念にとらわれた幼少年期。妻の愛情に包まれて暮らした青年期。被爆を経て孤独の中で作品を紡ぎ、年少の友人・遠藤周作が「何てきれいなんだ」と表した、その死。稀有な生涯を描く評伝。
	松本清張：「隠蔽と暴露」の作家 / 高橋敏夫著 集英社, 2018.1 (集英社新書0916F) 910.268-Ma81tb 清張の代表的作品をとおして、その表現の核にあった「隠蔽と暴露」の方法をたどるとともに、わたしたちが日常で感じる社会や国家への「疑い」を称揚し、そこにひそむ秘密を見抜く方法を明らかにする。
	三島由紀夫と天皇 / 菅孝行著 平凡社, 2018.11 (平凡社新書896) 910.268-Mi53kj 三島の死には、戦時期から戦後に至る昭和天皇の言動への諫死の意味が込められていた。その死を通して戦後体制の欺瞞の構造を抉る。天皇制と民主主義、対米従属と国粹主義。戦後日本の矛盾を見抜いた三島の先駆性とは。
	三島由紀夫ふたつの謎 / 大澤真幸著 集英社, 2018.11 (集英社新書0955F) 910.268-Mi53ob 近代日本が生み出した最高の知性が、なぜこれ以上ないほど「愚か」な最期を選んだのか？そして、「究極の小説」を目指して執筆した最後の長編『豊饒の海』のラストは、なぜ支離滅裂ともいべきものになったのか？文学史上最大の謎に挑む。
	村上春樹は、むずかしい / 加藤典洋著 岩波書店, 2015.12 (岩波新書) S-910.268-Mu43k 誰にも理解されていない村上春樹の文学像について、全作品を読み解いてきた著者ならではの視座から、その核心を提示する。
	漱石のことば / 姜尚中著 集英社, 2016.3 (集英社新書0824F) 910.268-N58kbk 漱石の平易な言葉は、深い智慧をもたらしてくれる。「可哀想は、惚れたという意味」「本心は知り過ぎないほうがいい」「すれ違いは避けられぬ」「みんな淋しいのだ」「病気であることが正気の証」「嘘は必要」「一対一では、女が必勝」「頭の中がいちばん広いのだ」「片づくことなどありやしない」。半世紀以上にわたり漱石全集を愛読してきた姜尚中が、一四八の文章を紹介。
	安吾のことば：「正直に生き抜く」ためのヒント / 藤沢周編 集英社, 2016.12 (集英社新書) 910.268-Sa28ab 1947年の『墮落論』で、時代の寵児となった坂口安吾。価値観が一変した世の中で戸惑う人々に、言葉の力が勇気を与えた。
	武蔵野をよむ / 赤坂憲雄著 岩波書店, 2018.10 (岩波新書1740) S-913.6-Ku44mYa 26歳の青年、国木田独歩が失恋の果てに綴った『武蔵野』。120年前の短篇には、近代日本の風景が濃密に織り込まれていた。
	がっかり行進曲 / 中島たい子著 筑摩書房, 2017.1 【ちくまプリマー新書】 913.6-N341g 東京17.4.30 勉強も運動も不得意。学校にも馴染めない。私にも未来はある？大人になるのが怖い全ての人に向けた青春小説。
	ぼくたちはこの国をこんなふうに愛することに決めた / 高橋源一郎著 集英社, 2017.12 913.6-Ta332b 【集英社新書0912B】 竹島問題、憲法改正、象徴天皇制などの社会的テーマを、架空の小学校を舞台に平易な言葉で論じた小説的社会的批評。
	母の教え：10年後の『悩む力』 / 姜尚中著 集英社, 2018.10 (集英社新書0953C) 914.6-Ka43h 東京近郊の高原へと移住した著者は、今までとは違った眼差しで世界や同時代を眺めるようになった。今は亡き、母、父、息子、叔父、先生、友だち。今なら言える。すべての愛すべき人たちの思い出こそが私の故郷であり、私の先生だったのだと一。
	闘う文豪とナチス・ドイツ：トーマス・マンの亡命日記 / 池内紀著 中央公論新社, 2017.8 C-940.28-Ma45i (中公新書2448) 大作『ブuddenブロック家の人々』で若くして名声を獲得し、五十四歳でノーベル文学賞を受賞したドイツ人作家トーマス・マン。だが、ファシズム台頭で運命は暗転する。体制に批判的なマンをナチスは国外追放に。以降、アメリカをおもな拠点に、講演やラジオ放送を通じてヒトラー打倒を訴え続け、その亡命生活は二十年近くに及んだ。遺された日記から闘いの軌跡を描く。
ラテンアメリカ文学入門：ボルヘス、ガルシア・マルケスから新世代の旗手まで / 寺尾隆吉著 中央公論新社, 2016.10 (中公新書) C-960.29-Te58L ボルヘス、ガルシア・マルケス、ジョサ、ボラーニョといった作家を中心に、作品、背景となる世相、文学界の構造までを描き出す。	

獨協大学図書館 2019.4.16